

## 居住環境学科シラバス目次

ページ	授 業 科 目	担当者
-----	---------	-----

### 【1回生】

1	居住環境学概論	全教員
2	建築一般構造	土井・渡部
3	物理基礎演習	酒井
4	構造力学Ⅰ	生田
5	住生活論	小伊藤
6	色彩学	酒井
7	生活環境科学	土井
8	生活数理演習	西岡・井川
9	基礎デザイン実習	竹原・小池 (山根)・(白須)
10	基礎設計製図	多治見・西岡・(西川)

### 【2回生】

11	居住環境工学Ⅰ	永村
12	建築計画学	森
13	建築材料学及び実験	渡部
14	構造力学Ⅱ	渡部
15	住居計画学	多治見・小伊藤・上田博
16	住文化史Ⅰ	谷
17	人間工学	岡田明
18	CAD/CGデザイン演習	三浦・小池
19	インテリア計画学	三浦
20	環境材料学	土井・酒井
21	居住環境工学Ⅱ	永村
22	建築・環境法規	(片岡)
23	建築構造学Ⅰ及び実験	土井・生田
24	住文化史Ⅱ	谷
25	都市計画	藤田
26	防災・安全科学	生田・(北後)
28	設計製図Ⅰ 第1課題＋第2課題	上田博・生田 (澤村)・(長瀬)
29	設計製図Ⅱ 第3課題(コミュニティ施設)＋第4課題(保育園)	谷・森・小伊藤・三浦 生田・(岡本)・( )
30	基礎生活情報学実習	多治見
31	応用生活情報学実習	永村

ページ	授 業 科 目	担当者
-----	---------	-----

【3回生】

33	居住空間設計論	竹原
34	居住地計画論	藤田
35	居住福祉工学	上田博
37	建築構造学Ⅱ	(辻)・(山浦)
38	建築施工法	(西川)
39	建築設備	井川
40	住居管理・経営論	多治見・(梅本)
42	住宅性能評価法	土井・上田博・(延原)
44	生活機器学	岡田明
45	生活統計学	岡田明
46	デザインワークショップ	竹原・小池 (木村)・(松本)
47	測量学	(小笠原)
48	技術者倫理	全教員
49	プロダクトデザイン演習	岡田明・西岡・(稲上)
50	まちづくり演習	藤田・(北野)
51	環境システム設計及び実験	永村・井川
52	建築計画基礎演習	森
53	地域福祉施設計画演習	三浦
54	保存修景演習	谷・(松本)
55	演習Ⅰ	全教員
56	設計製図Ⅲ 第5課題(文化複合施設)	森・小伊藤 (矢田)・(岸上)
57	設計製図Ⅲ 第6課題(木造住宅意匠設計)	竹原・土井・小池 (広渡)・(阿久津)
58	設計製図Ⅳ 第7課題	竹原・森・小池 (吉井)・(山隈) (芦澤)

【4回生】

61	設計製図Ⅴ 第8課題(即日設計、デザイン提案)	藤田・三浦・(宮崎) (澤本)・(増田)
62	演習Ⅱ	全教員
63	卒業論文または制作	全教員

**居住環境学科での履修時間について**

各科目(次ページ以降)の時間数は以下のとおりとする。

時間数：

☆	22.5時間
☆☆	45 時間
☆☆☆	67.5時間
☆☆☆☆	90 時間
☆☆☆☆☆	112.5時間

## 教職関係科目シラバス目次

ページ	授 業 科 目	担当者
65	家庭科教育法Ⅰ	(永田)
66	家庭科教育法Ⅱ	(赤松)
67	家庭科教育法Ⅲ	(吉井)
68	家庭科教育法Ⅳ	(吉井)
69	生徒指導論	(森)
70	被服学概論	(村田)
71	被服構成学	(村田)
72	食物学Ⅰ	市川
73	食物学Ⅱ	曾根
74	調理実習	(佐伯)・小島
75	住居学概論	谷・永村・森
76	保育学	堀
77	栄養教育実習	春木・堀内・湯浅

## QOLプロモーター養成関係科目シラバス目次

ページ	授 業 科 目	担当者
79	QOLプロモーションⅠ	清水・所・西川
80	QOLプロモーションⅡ	上田・畠中・岩間
81	QOLプロモーション演習Ⅰ	上田・西川・春木 他
82	QOLプロモーション演習Ⅱ	上田・西川・春木 他
83	居住福祉工学概論	上田博

上記以外の関連科目シラバスは

QOLプロモーションⅠまたはⅡの履修者に別途配付する。

科 目 名：居住環境学概論

科目英文名：Introduction to Theory of Housing

担 当 者：全教員

種 別：演習 単位数：2 時間数：☆☆ 学年・学期：1 年生・前期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：居住環境学の概要と特色・意義を理解する。また、体験学習や共同作業等によって専門科目の一端にふれ、居住環境学の広がりを実務を体感するとともに、実務でも求められる表現や共同作業、課題解決等の能力を身につけるための基礎的課題を行う。

講義の位置づけ：はじめて接する専門科目であり、居住環境学科の特色である生活者としての視点の持つ意味や重要性を認識することが重要である。本講義を通じて、居住環境学を理解しその展望と問題意識、倫理観を育む基盤を形成する。

講義の概要：居住環境学を構成する分野の概要を説明するとともに、それぞれの今日的課題や意義、研究内容を講義する。また大学での学習に有用で必要な情報収集などの方法について説明する。さらに、実地見学や課題に取り組み、共同作業等によって表現能力やコミュニケーション能力を育む。

講義方法：講義および実習・実験を行う。実習・実験課題は、グループでも取り組み、レポート、プレゼンテーションを行う。さらに、表現能力に関する基礎的トレーニングを行う。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度		○	◎			○	◎	◎	○	○	○	○						◎		◎	◎

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
生活科学と居住環境学	2	生活科学の学問領域としての特徴、居住環境学の体系と構成の概略を述べる。	生活科学の歴史・生活者の視点・生活問題・生活様式・問題解決学	A2 C1-C4
専門科目と学習方法	2	専門科目の概要と、学習に必要な情報の収集方法、レポート作成法について説明する。	専門科目・全学共通科目・文献資料・IT技術・レポート作成	F2・G2・G3
居住環境学の実務分野と技術者倫理	4	卒業後進路や実務分野を説明するとともに、実務で求められる能力・知識と技術者倫理について説明する。	実務（設計・住宅建設業・設備・構造・調査研究・製造業・コンサルタント・その他）・学部教育・技術者倫理	A2・A3 F2
居住環境学各分野の概要	5	居住環境学を構成する各分野について概要を述べ、卒業研究や教員の研究や業績等の事例を紹介する。	住居学・住宅設計・ヒューマン・インタフェース・デザイン・居住環境工学・建築構造・材料学	C1-C4 D1-D4
空間把握とプレゼンテーション	4	建物や地域を観察し図面などに表現したり景観や建物内部をスケッチする。	地図・見取り図・風景スケッチ・民家博物館・公共施設・	A2・A3 C1-C4, D1・D4, G2・G3
住宅・建築デザイン発見	6	都心や市街地、住宅地を、自主的に企画して観察し、特徴や優れたデザインなどを発見し、その成果をプレゼンテーションする。	住宅建築デザイン・まちなみ・歴史的建造物・環境技術・建築構法・スケッチ・図面・資料・写真・地図	C2・C4, D1・D4, F2, G2・G3
事例の見学・実習	5	居住環境工学や構造学、材料学・住宅計画の理解に資する現場や施設を見学し、考察する。	建設現場・設備機器・鉄骨・配筋・住宅展示施設・一戸建住宅・共同住宅・住宅地	C1-C3 F2, G2・G3
居住環境学実験	2	客観的情報の作成と理解のために実験を行い、技術報告書（レポート）を作成する。	居住環境工学・住宅構造・材料・レポート作成・調査情報・実測データ	D2・D3・F2・G2・G3

評価方法：A3についてはレポートを課し、講義内容の理解度、論理的表現力を評価する。C2・C3は、各分野に関するレポートを課し、理解度とF2の自主的学習力、およびG2の論理的表現能力とG3の共同作業能力を評価する。

教科書等：必要に応じて資料を配付する。また参考資料を指示する。

備考：教室は第8教室を基本とするが、見学や実習実験の場合は集合場所を指示するので注意すること。課題の締切などについてもその都度指示する。

科目名：建築一般構造

科目英文名：General Construction for Architecture

担当者：土井 正・渡部 嗣道

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：1 年生・前期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：建築物の構造的な仕組みを理解するための基礎知識を学習する。躯体構造から仕上げまでの全体構成に関する仕組みを理解する。構成材料の特性と構造との関係を理解する。

講義の位置づけ：建築学の入門的講義である。今後の設計製図、構造学、環境工学を学ぶ上での基礎的講義として最も重要なものの一つである。

講義の概要：建築の基礎的素養として、建築物の構成や仕組みについて、総合的に把握、理解する。内容は、構造様式、適用材料、施工法まで幅広く取り扱う。中でも主要構造である、木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造については材料特性と構法、構造計画との関係についての知識を習得する。

講義の方法：講義を主とするが、適宜、実施図面等を使用し、より深い理解を得られるよう配慮する。また、ビデオ教材の視聴により、実際の建築施工法などに触れさせる。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				○							◎		○	○							

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
建築物の構成	1	建築物の構成方法の基本的な仕組みについて概説し、構造方式の種類などを紹介する。	建築構法、空間の構成、外力と支持部材、柱梁式、壁式、トラス、アーチ、下地と仕上げ、設備、開口部・建具、造作	D2 D4
木造	4	主に在来軸組み工法および枠組み壁構法について教授する。	伝統構法、在来軸組み工法、枠組み壁構法、基礎、土台、柱材の種類、横架材の種類、仕口・継手、小屋組み、床組み、耐久性	B1 D2
各部構法	2	主に基礎、屋根、壁、床、天井について教授する。	地業の機能と種類、基礎の機能と種類、屋根の機能と種類、葺き材、防水工事、壁の種類と機能、真壁・大壁、湿式・乾式、耐力壁・非耐力壁、床構造、天井構造	D2 E1
鉄骨造	2	材料特性に応じた部材の形状と接合方法について概説する。さらに、ラーメンおよびトラス形式の構法説明を行う。	材料特性、鋼材の種類、フランジ、ウェーブ、座屈、構法の種類、接合方法、ボルト接合、溶接接合、耐火被覆	D2
鉄筋コンクリート	2	コンクリートと鉄とによる部材性能の共同方法や配筋および接合方法について概説する。また、施工方法のほか、ラーメン式と壁式についての構造方法について説明する。	鉄筋コンクリート造の原理、コンクリートの性質、配筋の原理、構法の種類、継手と定着、異形鉄筋、かぶり厚さ、主筋、あばら筋、帯筋、耐震壁、耐力壁、壁量	D2
構造物のモデル化と反力の計算	2	単純梁・片持梁の説明。反力の計算方法の演習。	単純梁・片持梁。反力	D2
静定・不静定	1	構造物の静定・不静定、安定・不安定の判定を行う。	静定・不静定、安定・不安定	D2
まとめ	1			D2, E1

評価方法：定期試験（100％）により評価する。B1については力の流れと材料特性に関する理解度、D2については各種構法の力学的思想、材料特性、各種構成部材の役割についての理解度を評価する。D4については建物の運用についての理解度を評価する。E1については表現方法で評価する。

教科書等：土井・宮野ほか／住まいの構法・材料／彰国社、監修 内田祥哉／建築構法／市ヶ谷出版社  
備考：

科目名：物理基礎演習

科目英文名：Exercises of Elementary Physics

担当者：酒井 英樹

種別：演習 単位数：演2 時間数：☆ 学年・学期：1回生・前期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：本学科で学ぶ技術者専門教育に必要な基礎知識としての数理的計算力を身につける。

講義の位置づけ：数理的知識を有する科目、特に構造力学の技術習得能力に必要な力学の基礎的知識となる。

講義の概要：微積分、ベクトル、力学についての演習問題を数多くこなすことにより、数理的素養の定着を図る。

講義方法：計算問題を通して理解を図る。

学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				◎																	

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
数学の基礎	4	生活科学に必要な数理的知識を把握し、微分・積分、ベクトルについて学習する。	微積分、三角関数、空間、ベクトル	B1
力学の基礎	5	力学の基本法則を理解し、基本的な力学問題の解法を学習する。	運動方程式、質量と運動量、モーメント、次元と単位、力の合成と分解	B1
微分方程式の解法	6	記号法による定数係数の線形微分方程式の解法を学習する。	微分方程式、初期条件	B1

評価方法：B1について、力学及び微分方程式に関する基本的な計算能力を、小テスト・レポート（20%）、中間試験（40%）、定期試験（40%）により評価する。なお、小テスト、レポート、中間試験は予告なしに実施し、実施日に遅刻・欠席した場合は、評価対象外とする。ただし、事情がある場合は申し出ること。

教科書等：プリント配布

備考：関数電卓（第1回目の講義で指示）を準備すること。ノートパソコンや情報端末の電卓アプリケーションでの代用は不可とする。また、関数電卓の使い方は、講義では取り扱わないので、電卓に付属の取扱説明書を第2回目講義前までに熟読し、一通りの機能を使えるようにしておくこと。

科目名：構造力学I

科目英文名：Structural Mechanics I

担当者：生田 英輔

種別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：1 年生・後期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的 建築構造設計を行うに当たっての基礎学力を身に付けるために、静定梁の応力および応力度算定方法を学ぶ。

講義の位置づけ：建築構造力学の初歩をして学習する。建築構造や構造設計演習の基礎となる。

講義の概要：建築物を構成する部材に生じる応力の種類と求め方、応力図の描き方など、構造力学の基礎について教授する。また、具体的な応力解析は、線材架構としての静定梁について行う。その後、断面図形の諸性質、断面に作用する応力度などについて解説する。

講義方法：適宜、演習を取り入れながら理解を図る。

学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				○		○					◎										

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
序論	1	本課題の目標設定と概要説明を行う。力および構造物形態の種類と反力の算定方法の学習を行う。	外力、反力、応力、応力度、変形、静定構造物、片持ち梁、単純梁	B1 D2
応力の算定	5	静定梁において部材に作用する応力の算定方法を学習する。	片持梁、単純梁、軸方向力、せん断力、曲げモーメント	D2
応力度とひずみ度	2	部材断面に生じる応力度とひずみ度との関係を学習する。	ひずみ度、応力度、弾性係数	D2
曲げ応力度	4	部材断面が持つ力学的特性と部材断面に生じる曲げ応力度の算定方法について学習する。	図心、断面1次モーメント、断面2次モーメント、断面係数、T形断面、曲げひずみ度、曲げ応力度	D2
その他の応力度と設計方法	2	その他の応力度の説明と、構造設計の誘いとして材料強度との関係を学習する	せん断応力度、材料強度、構造設計	C1 D2
まとめ	1			D2

評価方法：定期試験（70％）および演習課題（30％）の結果によって行う。Dについては、静定梁についての応力計算、応力度とひずみ度の関係把握、および曲げ応力度の計算と構造設計について、理解度を評価する。Bについては力学に関する単位の理解度、Cについては空間設計上の構造計算の理解度を評価する。

教科書等：基本的に資料を配布。参考図書『初めての建築構造力学』建築のテキスト編集委員会著、学芸出版社

備考：関数電卓を持参すること。

科目名：住生活論

科目英文名：Theory of Living Arrangements

担当者：小伊藤亜希子

種別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：1 年生・後期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：現代の住生活の有り様が、歴史的な経緯を経て形成されてきたものであり、社会の様々な環境のなかで成り立っていることを理解する。また現代の住生活がかかえる問題を知り、将来問題解決に携わる専門家になるための基礎的な知識と住居観を身につける。

講義の位置づけ：1 年生を対象とした講義であり、住宅や住生活に関する学習の導入部分に位置づけられる。

2 年生以降の住居計画学、住居管理・経営論を学ぶための専門知識の裏付けとなる。

講義の概要：まず、家族生活と住まいの発達史を学習し、現代の住まいと住生活の位置を明らかにする。次に住宅が階層的に構成されていることを押さえつつ、住生活のかかえる問題を様々な視点から考察し、これからの住まいのあり方について展望する。

講義の方法：講義は必要な資料・プリントを配布し、またOHP、ビデオなどで、具体的な事例を紹介しつつ進める。また学生自らの住まいのリフォーム課題を出し、討論の材料としていく。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度	○	◎						◎	◎						○						

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
住まいの発達史	3	明治・大正期の住まいの変遷 昭和から戦後の住まいの変遷	格式型住宅、オモテとオク、中廊下型住宅、和洋折衷住宅、生活改善運動、イス座とユカ座、食寝分離論、モダンリビング、ダイニングキッチンが登場、標準設計	A2, C3
戦後の住宅政策	3	戦後の住宅政策と住宅問題 住宅階層と住要求	住宅政策、住宅階層論、持ち家と借家、居住水準、住居費、居住権	A1, C3, E2
日本人の住生活	6	伝統的住宅にみる住生活 生活と住まいのずれ 変容する家族と住まい 子どもの住生活 高齢者の住生活 生活時間と住生活	nLDK型住宅、町家、職住併用住宅、ライフステージと住要求、住まいの商品化、標準家族とその変化、単身世帯、一人親世帯、少子高齢化 遊びと生活、高層住宅と子ども、共働き世帯の子ども、子ども部屋 同居と別居、生活拠点移動、高齢者施設、生活支援 生活時間 労働と家庭生活	A2, C4
課題発表	2	自宅のリフォーム計画をつくり発表する。	住生活の課題・住要求の発見	E2
まとめ	1			

評価方法：(A2)については、住まいと住生活の歴史的発展過程をその時代の社会・文化の変化の中で把握できていること、現代の住生活が抱える問題を都市や環境との関係で理解できていることとし、試験により評価する。(C1) (C2)については、都市空間・居住空間と、そこで展開されている住生活の相互関係を理解し、問題解決のための条件を示せることとし、試験により評価する。(E2)については、住空間の抱える問題を発見し、改善の方向を具体的なプランとして示せることとし、住宅リフォーム課題により評価する。

教科書等：毎回、講義レジュメと資料を配付する。



科目名：色彩学

科目英文名：Science of Color

担当者：酒井 英樹

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：1 年生・後期

当学科学生以外の受講：可（教室収容定員を上回った場合は、履修制限を実施することがあるため初回に必ず出席すること。）

講義の意義・目的：生活や産業、環境などの場で「色彩」を有効に活用するために必要な色彩学の基礎的事項を会得する。

講義の位置づけ：色彩は、デザインの重要な要素の1つである。本講義を受講することにより、デザイン系科目において色を適切に管理できるようになる。

講義の概要：色を取り扱う上で必要となる色知覚の生理メカニズムと色の表示方法について説明するとともに、希望する色彩感情（イメージ）を表現するために必要となる配色技法の解説、および、実際の場面で使われている色彩の調査・分析法を紹介する。

講義の方法：色は心で感じる心理現象である。よって、講義においても、実際に色票を使って、その心理的効果を体験しながら、学習を進めていく。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				○								◎				○					

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
色知覚と表色系	4	色の見え方の複雑さを体験するとともに、色の記録・伝達方法を学習する。	色覚、対比、錯視、色名、表色系	B1、D3
色彩調和と配色技法	4	配色による色彩感情の表現法を実習を通して学ぶ。	色彩感情、色彩調和、配色実習	D3、E3
照明と光源	3	照明・光源の違いによる色知覚の変化、および、その評価方法を学習する。	色順応、色温度、演色性、混色	B1、D3
色彩計画	3	カラーコーディネーションの重要性とその調査方法を学ぶ。	色彩調査、CG、ユニバーサルデザイン、安全色彩	D3、E3
まとめ	1		色彩学全般	

評価方法：D3、E3の色彩の心理効果の理解を、実習およびレポート課題（50%）を通して確認する。B1、D3の色を管理する上で必要となる知識の習得は、定期試験（50%）により評価する。

教科書等：大井義雄、川崎秀昭「カラーコーディネーター入門 色彩（改訂増補版）」日本色研事業2007新配色カード199a、日本色研事業

備考：履修にあたり、新配色カードは指定のものが必須だが、教科書は同等の内容が掲載されている他の書籍で代用してよい。

科目名：生活環境科学

科目英文名：Environmental Science

担当者：土井 正

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：1 年生・後期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：地球温暖化問題といった地球規模から、水質汚濁、大気汚染、ヒートアイランド現象など都市や生活環境および室内空気汚染、シックハウス問題など居住環境にいたる広範囲な環境問題の概略を学ぶ。現在の環境問題では、我々は被害者であると同時に加害者でもあり、倫理的な観点から環境問題を再認識することを目的とする。

講義の位置づけ：設計活動が環境や社会に与える影響を思索できる技術者、設計者となるためにグローバルな思考、倫理観を養うための基礎科目である。物理学、化学、生物学、社会学など幅広い基礎教養を有することが望ましいが、環境問題の解決に向けて積極的、主体的に関心を持つことが重要である。

講義の概要：地球環境問題全般について技術的視点や倫理的視点から概括して、環境倫理の必要性を示す。ついで、住まいにおける快適性や快適性を維持するための仕組み、それらと気候風土とのかかわりを学ぶ。地球温暖化問題を中心に建築分野における炭酸ガス排出量削減と快適環境を実現するための取り組みについて学ぶ。大気や海洋の大循環など地球環境の成り立ち、環境問題の歴史的側面を理解する。環境汚染や負荷を軽減するための資源リサイクル、廃棄物処理、エネルギーの有効利用などについて基礎的知識を習得する。シックハウス症候群のメカニズムなど、快適な環境を構築するための矛盾点、解決策などを学習する。

講義方法：広範囲な問題を複眼的視点で捉える科目である。そのため、ビデオ教材を活用して、世界における地球環境問題の解決に向けた取り組みについて紹介する。関連のデータなど必要な資料は適宜配布する。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度			○	◎		○	○											○			

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
地球環境と環境倫理	1	環境問題の技術的問題と倫理的問題について理解する。	環境倫理、技術者倫理、企業倫理、地球環境、生活環境	A3, B1, F2
地球環境問題	2	地球温暖化問題など産業活動との関係について学び、京都議定書の意味するものを理解する。問題解決に向けての産業界の取り組みについて学ぶ。	IPCC、京都議定書（COP3）、環境負荷、炭酸ガス削減の取り組み	B1
地球環境の成り立ち	4	大気、海洋、生物圏の成立過程を学び、地球温暖化やオゾンホールなど全地球的な環境問題の自然科学的側面について学ぶ。	惑星地球の歴史、大循環モデル、オゾンホール、エネルギー収支と地球温暖化、大気汚染、海洋汚染、酸性雨、森林問題	A3, B1, C
生活環境	5	都市環境から居住環境まで人に近接した環境問題を学ぶ。	水質汚濁、大気汚染、ヒートアイランド、廃棄物処理、リサイクル、未利用エネルギー、バイオマス利用、環境アセスメント、ダイオキシン、化学物質過敏症、VOC、シックハウス、微生物汚染	A3, B1, C, F2
快適環境のしくみ	2	気候風土と住まいの関係から、環境との共生を図りながら快適な居住環境を構築するための手法や評価方法について学ぶ。	住まいの快適性、人体機能と心理生理、気候風土と住まい、省エネルギーと快適性、冷暖房の工夫、環境共生住宅	A3, B1, C
まとめ	1			

評価方法：定期試験（60％）及び課題レポート（40％）により評価する。A3およびF2については国際的な動向の理解度、B1については、居住環境や環境技術が地球環境や生活者、社会に与える影響と相互関係についての理解度を評価する。

教科書等：特に指定しない。必要な資料・プリントは講義時に配布する。

備考：構成要素に関連した新聞記事のスクラップを通じて社会的背景について理解を深める。

科目名：生活数理演習

科目英文名：Exercises in Mathematical Science for Human Life

担当者：西岡 基夫・井川 憲男

種 別：演習 単位数：演2 時間数：☆ 学年・学期：1回生・後期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：本学科で学ぶ技術者専門教育に必要な基礎知識である数理的な教養の定着を図る。

講義の位置づけ：数理的知識を有する科目、特に構造力学，居住環境工学，環境材料学，生活統計学の技術習得能力に必要な数学の基礎的知識となる。

講義の概要：数理的素養を身につけるには，一定量の計算訓練が必要である。単位換算，微積分，関数とグラフ，行列，確率に関する演習問題を数多くこなすことにより，数理的素養の定着を図る。

講義の方法：計算問題を通じて理解を図る。

学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				◎																	

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
概要と適応事例	2	生活と数理のつながり。数理とは何か。数値化，数量化はなぜ必要かを学習する。	生活数理の基礎的概念，構造力学・材料学・環境工学・人間工学などとの関連性	B1
生活の中の単位	2	生活の中で使われている単位とその変換方法について理解を進める。	単位の種類，単位変換	B1
関数とグラフ	3	関数の定義と関数の種類，および関数のグラフ化とその読み取り方を把握する。	関数と逆関数，多項式関数，指数関数，対数関数，グラフ化	B1
代数基礎	2	行列の意義と，居住環境への適応例を学習する	ベクトル空間，正方行列，三角行列，対角関数，要素と行列	B1
解析基礎	3	積分の意義と，積分から把握できる居住環境の適応例を学習する。	置換積分，データ分析，部分積分	B1
確率	2	確率とは何か。生活科学での利用方法	確率の概念，利用方法	B1
まとめ	1			

評価方法：B1について、基礎的な計算能力を、小テスト（30%）、定期試験（70%）により評価する。

教科書等：適宜プリント配布。

備考：関数電卓を用意すること。

科目名：基礎デザイン実習

科目英文名：Fundamental Training in Design

担当者：竹原 義二・小池志保子・（山根健太郎）・（白須 寛規）

種 別：実習 単位数：実1 時間数：☆☆ 学年・学期：1 回生・後期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：本講義は建築設計におけるデザインワークに必要な基礎的な表現技法の習得を第一の目的とする。また、様々な分野の表現手段の紹介を通じデザインに対する興味と発想の柔軟性を引き出すことも本講義の意義とする。

講義の位置づけ：本講義は建築設計におけるデザインワークに興味を持つ学生を対象とし、デザインワーク連のプロセスについて、実習を通じて体験し、2 年次以降の設計製図課題のための表現の基礎力づくりをする。

講義の概要：本講義はテーマごとに完結した課題を設定し、イントロダクション、プランニング、作品製作、プレゼンテーション、を一連の流れとした実践的な演習中心の形式をとる。建築設計における、施主へのプレゼンテーションや設計競技（コンペティション）への提案における、表現と構成の基礎となるものである。

講義の方法：講義は上記のように実習形式で行うが、PCを使用したプレゼンテーションや見学会なども行う。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度														◎		◎	○	○		◎	

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
デザインとは	1	デザインについて 現役クリエイターとしての自身の作品 プレゼンテーション	生活とデザイン、プロジェクトワーク	E1, 3
平面技法 1	1	基礎的な形態のデッサン	手で描くと言う行為、プレゼンテーションとは	F1, 2
平面技法 2	1	スケッチ	光と陰、遠近法	F1, 2
立体デザイン基礎 1	2	発想をデザインする	色彩と形態、素材、コラージュ	E1
立体デザイン基礎 2	1	立体をデザインする	観察力の重要性、素材と構造	E1
総合課題 1	3	小空間のデザイン 建築物のファサードのデザインを行い、 まち並みを形成する	コンセプトワーク、モデル制作の素材と技法、プレゼンテーションの重要性	G2
総合課題 2	4	実作の制作	構造と素材への理解、原寸と縮尺について	E3, G2
デザイン、アートの現場	2	見学会	作家、企画者との対話、討論	G2

評価方法：Eについては、デザインワークに必要な表現技法を習得させる技術を授業中のレポート、スケッチ、製作の提出によって評価する。Fについては、与えられた与条件をスケッチ、製作の提出によって評価する。Gについては、実習の中からプレゼンテーションを製作、発表することを評価する。すべての課題を提出すること。

教科書等：特に指定なし。授業中に資料を配布する。

備 考：本講義は実習形式で行うので基本的な道具（鉛筆、定規、スケッチブック等）は各自用意するのが望ましい。また大学側から支給される材料以外は各自の自己負担となる。

科目名：基礎設計製図

科目英文名：Elementary Drawing and Graphics

担当者：多治見左近・西岡基夫・(西川三記子)

種別：実習 単位数：実1 時間数：☆☆ 学年・学期：1 回生・後期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：建築・住宅製図の基礎的素養を身につける。設計図面は設計意図を施工者や施主などの他者に伝える重要な手段であり、的確な表現能力を身につける必要がある。また優れた建築・住宅設計を行うためには、図面から空間をイメージする能力を培うことが必要条件である。

授業の位置づけ：住居設計、空間設計に必要な基礎的能力やスキル、知識を修得する。設計製図を行うために必須である。設計製図において当然に理解しておくべき図学・透視図についても確認と説明をする。

授業の概要：製図用具の使い方、線の練習、表示記号、レタリングなどの基礎的スキルを身につけるとともに、空間認識の基本的感覚を養い、建築図面を描き、理解するために必要な能力を得る。さらに設計した空間のイメージを伝えるための表現方法についても学ぶ。

授業方法：それぞれのテーマについて講義、説明を行い、その後に実習をする。説明を聴かないと実習できないことが多いので、毎回遅れないように出席すること。製図・図面作成は、実習を通じて、個々人で磨くべき能力・スキルである。一通りの実習で十分に身につくものではなく、個人の努力と研鑽によって到達点は異なる。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				○										◎						◎	

授業内容

テーマ	回数	概 要	構 成 要 素	学 習・教育目標
製図の基礎知識・能力	4	設計製図を作成するための基礎である線の描き方、建築図面の基本的表示方法を修得する。	用具の使い方、線の描き方 建築図面の表示方法、レタリング	G2
立体図形の理解と図法	2	図学の基本を学び、直線・平面の投影による表現方法と、立体図形と立体の簡単な断面の作成方法を理解する。	直線・平面の投影 立体図形の書き方・断面図	B1
建築図面の描き方	4	建築設計図面の基本的ルールと作成方法を修得する。	建築図法・図面の作成方法 ドローイングスキル	E1 G2
透視図表現	5	設計図面を、他者に空間として伝える方法として透視図がある。その描き方・表現方法、スキルを修得する。	透視図法・透視図表現・パース点 景・パース作成・着色・空間認識(設計図面と空間の対応)・空間構成能力	B1 G2

評価方法：主に (E1) (G2) について、図面表現の美しさ、わかりやすさを評価する。トレースでは正確さや線の使い分け、線のシャープさ、文字表現が主な評価ポイントとなる。

○すべての課題を提出すること。未提出は認めない。ただし評価は3つ程度の課題によって行う。

○課題提出は2通りある。「提出」は実習し、理解したことを確認するもので、評価対象としない。ただし、未記入・粗雑など明らかな欠陥がある場合は再提出や減点することがある。「提出・評価」は作品として評価する。

○1週間以内の遅れが2課題(延べ2週間)までであれば許容するが、延べ5週間を超えた場合は課題得点を80%とする。10週を超えた場合は再履修とする。ただし事情がある場合は申し出ること。

○3/4以上出席すること。20分以上の遅刻は出席と認めない。ただし事情がある場合は申し出ること。

教科書等：武者英二・永瀬克己『建築デザインの製図法から簡単な設計まで』彰国社

ほかに、大脇賢次『基本・建築製図と表現技法』彰国社、富塚信司『設計製図』実教出版、など。自分にあった資料を必ずもっておくこと。

必要に応じて、資料を配付するほか、スライド、OHPなどを用い、前年度作品の展示をする。

備考：毎回、最初は講義室で説明を行い、その後に製図室に移動する。

科目名：居住環境工学 I

科目英文名：Environmental Control in Architecture I

担当者：永村 一雄

種別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：2 年生・前期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：熱的至適空間を設計するには、気象などの外的要因が建物をどのように伝わり室内にどれほどの影響を及ぼすのかを数量的に把握しておく必要がある。気候変動も考慮して、省エネを実現する建物が望まれる現在、本講ではその裏付けになる伝熱の基本を学ぶ。

講義の位置づけ：建物部位構造に関する大まかな知識を前提とする。主に建物の物理現象を扱うので物理的思考力も必要。建物の環境領域の基本事項を学習する。「建築設備」の土台となる科目である。

講義の概要：主に温熱環境を形成する伝熱系と空気質を支配する換気系の理論構造を把握する。そこに住まう人体側の生理心理反応を理解し、健康な室内環境の設計に責任を果たすための技術を得得する。

講義の方法：講義と並行して演習問題を配布（復習を効率的に行うためのキーワードあり）するので理解を深めること。初回講義時に配布する教科プリント・参考書等による予習を行うこと。考えを的確に相手に伝えるための練習にもなるので、不明点があれば研究室まで担当者に聞きに来ること。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度			○			○						◎									

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
熱的設計の概要と熱の基礎物理事項	1	建物と熱環境の関係、地球温暖化問題やヒートアイランド現象と省エネ、建物や環境が社会に及ぼす影響と社会倫理の概要	気候・風土、温熱の至適域、気候変動、低炭素社会、ヒートアイランド現象、省エネ、品確法、単位	A3 C1 D3
伝熱の基礎と熱特性	3	部材・部位・建物ごとの熱特性を定義し、保存則から諸関係式を導く。また基本的な暖冷房計画を行う。	伝熱の三態、伝導率（抵抗）、伝達率（抵抗）、貫流率（抵抗）、熱損失係数、エネルギー収支、デグリーデー、期間熱負荷	C1 D3
防露	1	部位表面の結露と原理、およびその防止法の基礎	結露の種類、露点、絶対湿度、飽和水蒸気圧、湿り空気線図	C1 D3
日射と熱	3	日射の熱的作用を表す用語と諸量を見積もり、温度として表現する技術を学ぶ	天体と運行、全天・直達・天空・反射・地物日射、相当外気温度、等価気温、都市域の熱環境	A3 D3
室内熱放射	3	放射の原理から放射熱を算定し、室温形成への組み込みを行う	放射の原理、放射率、多重（相互）反射、室温	D3
外界気候	1	建物は気候風土を意識し、地域性を考慮して立つことを認識する	気象と気候、クリモグラフ、気温・湿度・風向風速・日射などの統計量	A3 D3
空気質と換気	2	室内空気環境の質とそれを維持するための換気の原理、計算技術を学ぶ	汚染物質、シックハウス症候群、ホルムアルデヒド、風力換気、トレーサーガス法、換気回数	A3 C1 D3
まとめ	1	上記内容に関して到達度を確認する		

評価方法：A3, C1, D3について、快適な熱空間の構成や熱収支と換気に関する基本と、それらの論理的把握ができていないかを期末試験で評価する。資料等の持ち込み可。

教科書等：坂本雄三：建築熱環境（東京大学出版会）、加えて補足のためプリントを配布する。副読本や参考書のリストは初回に配布する。適宜、T. V. 記録の視聴や新聞記事配布を通して現在の社会の要請に触れる。

備考：講義においても定期試験の評価においても、体系（スジ）や論理的展開を意識してほしい。目標は、細部にわたる知識の記憶にあるのではなく、建物のなかでどのような物理要素が住まい手に影響を及ぼすのか、その効用と量的な見積りを把握し、物理機構を理解することにある。

科 目 名：建築計画学

科目英文名：Architectural Planning

担 当 者：森 一彦

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：2 回生・前期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：建築を計画する際の計画基礎と計画方法について学ぶ。特に、建築計画では、従来の単一機能空間から計画する方法でなく、建築空間を人そのものの身体や能力、人の行動特性などに配慮し手計画する方法について学ぶ。

講義の位置づけ：建築計画は計画・設計の基礎的な方法の学習に重点がおかれる。具体的には、基礎的概念として求められる人間の身体能力や行動特性、計画手法、非常時への配慮、地区環境問題への配慮などについて学ぶ。

講義の概要：講義では教科書に沿った解説に加え簡単な計画課題（宿題）を行い、建築計画の基本的なキーコンセプトを学ぶと共に具体的な計画手法を体験的に学ぶ。

講義方法：講義は教科書を中心とする説明と計画課題（宿題）の発表・講評を相互に関係させて進める。

#### 学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度	○							◎		◎				○			○				

#### 授業内容

テーマ	回数	概 要	構 成 要 素	学 習 ・ 教育目標
建築計画の役割	1	建築計画の社会性、範囲と意義を理解する	社会性、専門家の責任	A1・C3
人間をとらえる	2	建築の基準となる人間の多様性を理解する。	人間の多様性、身体能力、姿勢、動作、移動、アクティビティ	A1・C3
人間と環境	2	人間と環境との関わりを生理、心理の側面から理解する	人間の生理、心理、アフォーダンス	A1・C3 E1
人間の行動を知る	2	空間内の人間の行動特性を理解する。	人間の領域、環境行動、歩行行動、群集、空間知覚	A1・C3 E1
建築を計画する	2	寸法、スケール、規模、空間構成など計画の技法を理解する	設計、計画、寸法、スケール、機能、空間構成	A1・C3 E1
非常時の安全・安心のデザイン	2	非常時の安全性に配慮した計画を理解する。	災害、火災、避難、津波、風水害、雪害	A1・D1
サステイナブル・デザイン	2	環境の持続可能性に配慮した計画を理解する	地球環境問題、サステイナブル、環境保全、長寿命、リサイクル	A1・D1
事例の見学	1	建築事例の見学と説明		A1・F1
期末試験	1			

評価方法：A1については期末試験によって理解度を評価する。C3・D1・E1については4～5回の小課題（宿題）を課し、その提出物を評価すると共に、期末試験によって理解度を評価する。F1については建築企画に関するレポート課題を課し、その提出物を評価する。

教科書等：森一彦ほか「建築計画基礎」学芸出版会、建築学会編「建築設計資料集成・コンパクト版」丸善、必要に応じて配布資料を用いる。

備考：

科 目 名：建築材料学及び実験

科目英文名：Materials Construction and Experiments

担 当 者：渡部 嗣道

種 別：講義＋実験 単位数：3 時間数：☆☆ 学年・学期：2回生・前期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：建築材料の基本的性質とその性質を評価するための実験方法を把握し、建築部材への適用方法の技術を学ぶ。

講義の位置づけ：材料・施工技術だけでなく、意匠設計・構造設計などの幅広い分野の建築技術に必要な基礎的知識科目。

講義の概要：建築構造物に適用される無機材料を中心に、建築材料の種類、製造、性質、規格および要求性能のほか、材料実験方法について解説および実施する。

講義の方法：各種建築材料の種類と基礎的性質について学習する。特に、構造材料となるコンクリートと鋼材について重点的に解説し、それに続いて仕上材料を解説する。さらに実験学習も実施し、建築材料を身近なものとしてとらえながら実験方法も学習する。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度											◎										

授 業 内 容

テ ー マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
セメントおよびコンクリート	5	セメント製品および水和反応からコンクリートの硬化メカニズムを学ぶとともに、骨材との複合材料であるコンクリートの性質と調合について学ぶ。	セメント、水和反応、骨材、ワーカビリティ、力学的性状、耐久性、レディーミクストコンクリート	D2
	10	セメントモルタルおよびコンクリートの品質評価のための実験方法を学ぶ。	フロー、圧縮強度、ヤング係数、ポアソン比、スランプ、空気量、調合設計	D2
鋼材および金属材料	2	鋼材の種類、製造方法、力学的諸性状、規格、防錆、接合などについて解説する。鋼材のほか、アルミ・銅	鋼材や金属製の種類、製鉄と加工、鋼の性質と用途、鋼材の規格、ステンレス鋼、接合	D2
仕上材料および防水材料	5	仕上材料の中でも無機材料からなる製品の種類と性質・用途について解説する。また、屋根および防水材料についても解説する。	左官材料、建築用仕上塗材、石膏製品、ALC、タイル・れんが・瓦、ガラス、石材、屋根・防水材	D2
	5	実際に仕上げ施工を体験して、その性質を実験学習する。	・左官材料：混練・施工 ・タイル張り：施工・実験	D2
建築材料の技術	2	建築材料実務者を招き、技術の現状と企業活動について解説する。	住宅メーカー、インテリアメーカー	D2
まとめ	1			

評 価 方 法：建築材料の各種性質、各部材における建築材料の選定・計画方法の考え方や方法の理解度を、定期試験（60%）およびレポート（40%）などで評価する。

教 科 書 等：特になし。授業中に資料を配布。

備 考：関数電卓を常備しておくこと。



科目名：構造力学II

科目英文名：Structural Mechanics II

担当者：渡部 嗣道

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：2 年生・前期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：構造的に安全な建物を設計するためには、建物に加わる力の概念や応力計算の手法などを学んでおく必要がある。本講義では、静定および不静定のラーメンの解法、トラスの解法、座屈、静定骨組の変形について学び、応力解析のための基礎的知識を付与する。

講義の位置づけ：建築一般構造、構造力学Iをあらかじめ履修しておくこと。この講義で学んだ内容は、建築構造学IIや設計製図課題に応用される。

講義の概要：構造力学Iで教授した力の流れや応力の概念などの基礎的な知識を基にして、各種のラーメン、トラスの応力の求め方、および図示法について解説する。また、部材断面の諸特性についても学ばせ、座屈、応力度の考え方を理解することによって、木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造建物の構造解析における計算手法の基礎的知識を身につける。

講義の方法：各講義の初めに出席をとる。遅刻は認めない。單元ごとに解法の仕方を説明し、演習問題を解く。各講義の時間内に不明な点を残さないよう積極的に質問し、完全な理解を図ること。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				○		○					◎										

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
概論・復習	1	講義の進め方・学習の意義について述べ、構造力学Iの総復習を行う。	力の三要素、力の図示法、外力と内力、反力の求め方、応力、応力图、応力度	B1・C1・D2
静定ラーメン	3	片持梁型と単純梁型ラーメンの解法、3ヒンジラーメン・特殊なラーメンの解法について述べる。	ラーメン、外力の釣合い条件式、節点におけるモーメントの釣合い、応力の符号	B1・D2
トラス	2	トラスの数式解法と図式解法について説明する。	トラス、節点法、リッターの切断法、クレモナ図法	B1・D2
座屈	1	短柱と長柱の差異について述べ、座屈応力度の求め方、座屈の危険性の判断について説明する。	座屈、座屈荷重、座屈応力度、座屈長さ、細長比	B1・C1・D2
骨組の変形	2	静定骨組の変形について、モールの定理と仮想仕事の原理に基づいて解説する。	モールの定理、仮想仕事の原理、たわみ、たわみ角	B1・C1・D2
不静定ラーメン	5	たわみ角法と固定モーメント法による不静定ラーメンの解法について説明する。	部材角、節点角、剛度、固定端モーメント、節点方程式、層方程式、到達・分配モーメント、分配率	B1・D2
まとめ	1			

評価方法：B1、C1およびD2については数学・物理学の基礎的知識に基づく構造力学の理解すなわち、各種の骨組における応力の求め方およびその図示法や座屈、骨組の変形に対する理解度と計算力について演習問題解法やレポート（40%）および定期試験（60%）の問題解答により評価する。

教科書等：＜建築のテキスト＞編集委員会編『初めての建築構造力学』学芸出版社

科目名：住居計画学

科目英文名：Housing Design

担当者：多治見左近・小伊藤亜希子・上田 博之

種別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：2 年生・後期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：近代以降の住居計画の理念と技術、住空間を構成する各室や用途空間の機能、計画原理、戸建て住宅や共同住宅の計画技術、居住ニーズの把握方法、住まい手が参加するハウジングの方法等を学ぶ。

講義の位置づけ：住居学の基礎的専門科目である。建築計画学や住生活学で学んだ内容を基礎に、住居計画の基本的な考え方や住空間の構成原理、住宅平面の構成手法に関する理解を深める。また、3 年生で提供される関連科目群の基礎となる近代以降の住居計画の理念、居住ニーズの把握方法、さらに住宅政策やハウジングの動向を学ぶ。

講義の概要：住宅の社会的・文化的側面に着目する。プライバシーや機能性を重視する近代の計画理論から、コーポラティブハウジングやコレクティブハウジングに及ぶ多様なハウジングの可能性とその理念や計画手法の特徴、また住宅政策の役割や課題を講義する。

講義方法：理解を助けるため、具体事例となる図面、写真等の教材を用いる。適宜、講義内容と関連するレポートを課す。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度	○	○	○				◎	◎	◎	○			○								

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
近代住居の計画理論（平面計画）	2	バナキュラーな住居と近代住居との違い、近代の家族規範と住居の計画理論との関係性を理解する。 また、居住ニーズの変化への対応を想定した計画技術を学ぶ。	伝統的な住まいの空間構成、近代住宅の計画理論、住意識、住要求、ライフスタイル、ゾーンプランニング、動線計画、標準設計・型計画から可変型住宅へ、スケルトンインフィル（SI）参加型ハウジング	A1・A2・A3・C3
近代住居の計画理論（集合の仕方）	2	住戸が集合する際の計画理論について、領域形成、防犯性能、生活の共同化などの視点から学ぶ。	領域形成とコモン、集合住宅の防犯性能、家事集約型共同住宅、コレクティブハウジング	A1・A2・A3・C3・C4
住宅の平面計画	2	住宅平面のまとめ方、各室の計画手法を学ぶ。	住空間のあり方、空間構成と空間構造、接客と公室空間、家事・介護・子育てと機能空間、プライバシーとコミュニケーション	A3・C3・C4・D1
低層住宅の計画	2	居住環境形成の観点から、住宅の形態やデザイン、また住戸まわりの戸外空間に関する計画手法を学ぶ。	敷地条件と住居計画、住戸まわりの計画技術、景観形成、タウンハウスとミニ戸建て	C3・C4・D1
共同住宅の計画	2	戸建て住宅と対比される共同住宅の計画特性を学ぶ。密度と戸数規模、共用空間の種類や機能、住棟配置等の計画技術を学ぶ。住宅の地方性を踏まえた共同住宅や環境共生住宅へのアプローチを学ぶ。	共同住宅の歴史、共用空間の種類・機能、住戸へのアクセス方法、密度計画と共同住宅の形態、住棟配置、高層住宅の計画課題、地方性や地球環境に配慮した共同住宅	C3・C4・D1
住宅事情・住宅政策	2	日本の住宅ストックの特徴、フローの動向、住宅制度を理解し、課題を理解する。	住宅調査、住宅の所有関係、居住水準、住み替え、住宅の地方性、住宅制度と自治体住宅政策	A3・C2・C3・D4
住宅供給システム	2	住宅の工業化の歴史、工業化の方法、また、居住ニーズの変化への対応を想定した計画技術を学ぶ。	プレハブ住宅・住宅産業、持家/借家、公共/民間と新しいハウジングシステム	
まとめ	1			

評価方法：A1・3については、社会規範と計画技術との関係性に関する理解力を問う試験を課し、評価する。C2・4、D1・D4は住居計画の課題を的確に抽出・表現する能力を重視し、基礎知識を応用できる能力を問う試験を課し、評価する。

教科書等：必要に応じて資料を配布する。『コンパクト建築資料集成＜住居＞』（丸善株式会社）、住環境の計画編集委員会編『住宅を計画する』（彰国社）他を参考にする。

科 目 名：住文化史Ⅰ

科目英文名：Cultural History of Housing (Ⅰ)

担 当 者：谷 直樹

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：2 年生・前期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：現在及び将来の住文化を考える上で、その背景にある建築と都市の歴史に対する理解は不可欠である。本講義では、わが国における建築の歴史的展開、都市の形成と住環境の変遷について解説し、それらの基礎的知識の取得と包括的な理解を目指す。

講義の位置づけ：建築や都市に対する歴史的理解は、住宅を含む建築一般、都市の設計・施工のあらゆる段階で必要となる。それは、ゆるぎない規範を提示する場合もあれば、新たな可能性を示唆する場合もある。本講義の内容は、設計関連授業はもちろん、広範な領域の授業の基礎的知識としても重要である。

講義の概要：日本において展開された建築と都市の歴史について、住宅を中心に古代から近代までを時代順に取り上げ、その変遷を社会的条件と住文化史的背景から捉えて考察、検討する。

講義の方法：講義は、図版資料を示し、必要に応じてビデオなどを使って視覚的な把握を目指す。さらに、現存する建物や町並みを見学し、実物の空間体験を通じて理解を深める。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度	◎	◎	◎				○	○	○			○	○		○	○					

授 業 内 容

テーマ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
日本古代の住宅と都市	2	古代の住居と都城、神社・寺院建築について解説する。	堅穴住居と高床住居、平城京、寺院の伽藍、寝殿造、寝殿造の装束	A1・A2・A3・E2・E3
日本中世の住居	2	中世の貴族の住居と庶民の住居、町について解説する。	寝殿造から書院造へ、座敷飾り、東求堂、洛中洛外図、京の町家	A1・A2・A3・E2・E3
城と城下町	1	城と武家屋敷、城下町の構造について解説する。	天下人の居城、天守と御殿、安土城と大坂城、城と城下町	A1・A2・A3・E2・E3
茶室と数寄屋造	1	茶室の特徴とその展開について解説する。	利休と堺、茶室と露地、数寄屋風書院、桂離宮	A1・A2・A3・E2・E3
近世の民家	2	近世における民家の諸相を紹介し、その地域性を検討する。	風土と民家、民家の間取り、民家の地方色、京坂と江戸の町家	A1・A2・A3・E2・E3
近代の住宅	2	近代に登場する洋風住宅と、日本における近代住宅史を解説する。	洋風住宅の登場、上流階級の住宅、中流住宅の展開、住宅改良運動、新しいライフスタイルの提案	A1・A2・A3・C2・C3・C4・D3・D4・E2・E3
近代都市	2	都市計画の誕生など近代の都市形成について解説する。	居留地、都市計画の誕生、東京・大阪の都市計画、郊外住宅	A1・A2・A3・C2・C3・C4・D3・D4・E2・E3
歴史的建造物の見学	2	関西に現存する建築遺構の見学。	歴史的住宅建築、現地調査	A1・A2・A3・C2・C3・C4・D3・D4・E2・E3
まとめ	1			

評価方法：学習・教育目標のAを重視し、歴史的建造物に対する基礎的知識とともに、その社会的・文化的・芸術的・技術的背景への理解度を問う。また定期試験と見学会の参加によって評価する。

教科書等：配布資料

備 考：参考資料、『日本建築史図集』彰国社、『近代建築史図集』同

科目名：人間工学

科目英文名：Ergonomics

担当者：岡田 明

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：2 年生・前期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：居住環境や生活機器を設計していく上でぜひ考慮しなければならない人間の生理的・心理的諸機能・諸特性について論じ、使いやすく安全で快適かつ健康的な人間中心の設計手法を学ぶ。

講義の位置づけ：居住空間や設備機器と人間との円滑な関係を実現するために必要となる人間自身の理解を、生理学や心理学に基づき解説する。建築計画や環境あるいは設備機器等の設計において人間要素を扱う際の知識や考え方を提供する。

講義の概要：前半は主として設計に必要な人間の生理的・心理的諸機能・諸特性について論じ、後半はその応用面について解説する。併せて学外演習も実施する。

講義の方法：毎回ひとつのサブテーマを取り上げて講義を行う。ビジュアルな教材を多用し、理解のしやすさに配慮する。また、毎時間後に授業に対するコメントや質問を提出してもらい、次の時間に回答する。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度			○	◎		○						◎						○			

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
イントロダクション	1	人間工学の対象、人間工学の範囲、人間工学の必要性とその背景等を解説する。	人間工学とは、人間工学の必要性、人間工学を支える科学と技術	A3
ヒトの構造と機能	6	空間設計・機器設計に必要な体格、感覚機能、運動機能に関する種々の特性を、生理学や心理学に基づき解説する。	感覚の種類、視覚特性、視覚と心理、人体寸法、運動器の構造、身体の力と動作	B1・C1・D3
認知機能のわかりやすさのデザイン	1	公共表示や画面デザイン、あるいは機械の操作方法などのわかりやすさの改善やエラーの軽減等について解説する。	メンタルモデル、ヒューマン・エラー、操作のわかりやすさ、表示のわかりやすさ	C1
加齢工学 疲労とストレス	2	加齢に伴う心身機能の変化を知ることにより、高齢者対応のモノづくりを理解する。	加齢現象、高齢者居住環境の設計指針、疲労測定、ストレスの生理、サーカディアンリズム、睡眠のリズム	C1
人間工学応用事例	3	エルゴデザインやユニバーサルデザインについて、豊富な製品・空間事例を紹介しながらその現状や課題を説明する。	エルゴデザイン、ユニバーサルデザイン、設計手法、人間工学設計事例	A3
人間工学をめぐる課題	1	今後考えていくべき国内外の動向や課題を論じ、明日の人間工学を展望する。	人間工学データベースの構築、国際規格の整備、人材の育成	A3・F2
まとめ	1			

評価方法：各学習・教育目標の理解度と考え方により評価を行う。そのため以下の方法と配分を用いる。  
定期試験（50%；主としてB1, C1, D3）、毎時間の小レポートと課題レポート（50%；主としてA3, F2）

教科書等：毎回教材プリントを配布。その他、参考文献を授業中に紹介  
備考：

科目名：CAD/CGデザイン演習

科目英文名：CAD and CG Design

担当者：三浦 研・小池志保子

種 別：演習 単位数：演1 時間数：☆ 学年・学期：2年生・前期集中・集中

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：現代の建築製図およびそのプレゼンテーションにおいては、CADおよびCGによるデザイン技術が不可欠である。コンピューターを活用した製図を学び、CADおよびCGによる製図、表現技術、プレゼンテーションを学び、2年生後期以降の設計製図の表現力の向上を目指す

講義の位置づけ：全学共通科目「情報基礎」を履修していることが望ましい。また、「基礎設計製図」および「設計製図Ⅰ」の履修を前提に演習を進める。この演習を通じてCADによる製図、プレゼンテーションを理解し、以降の設計製図やプレゼンテーションに活かす。

講義の概要：CADソフトの操作方法の基本を理解したうえで、簡単な住宅の平面図、立面図、断面図の作成とそのプレゼンテーションを学ぶ

講義の方法：CADおよびCGのソフトウェアをマスターするには、一定期間、集中して操作を学ぶ必要があるため、集中講義の形式で演習を実施する。授業の実施は、必要なソフトウェアを使用できる、学術情報センター9階の情報端末室を予定している

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度					○									◎	◎					◎	◎

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
CAD/CGについて	1	CAD/CGを通して図面を描くことについて。CAD/CGを用いた建築について	ガイダンス、事例紹介	G2, G3
CADソフトの操作方法	2	CADソフトの操作方法の基本を理解する	CADソフトの基礎的な使用方法、図形描画やCADソフト特有の機能、レイヤ、スナップ、ファイル管理、図面管理、出力	B2
制作1	3	本課題の制作に向けて、予備的な図面を描く	CADを使用した図面描画、練習問題に取り組む。	B2
CGソフトの操作方法	2	CGソフトの操作方法の基本を理解する	CGを使用した図面描画、練習問題に取り組む。	B2
画像編集ソフトの操作方法	2	Photoshopの操作方法の基本について理解し、練習する	パノラマ写真を作成し、CG画像を、街並みの写真に合成する	B2
制作2	4	課題に取り組み、図面化する	CAD/CGを使用した図面描画と図面表現。出力用紙のレイアウトとプレゼンテーション	B, E1, E2
表現	1	講評会	グループディスカッションを行いながら、CADによる図面を用いて、自分の考えを表現する	G2, G3

評価方法：Bについては、演習を通しての理解度を、授業中のレポート、図面提出によって評価する。G2, 3については、演習の中から、プレゼンテーションすることによって評価する

教科書等：別途指示する

備考：本演習は集中講義形式で行うので、事前準備をすること。

科目名：インテリア計画学

科目英文名：Interior Planning

担当者：三浦 研

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：2 年生・後期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：近年、リフォームやリノベーションを施すことで建物を長期に渡り使用することが重要な課題となり、インテリア計画の重要性はますます高まっている。講義では、インテリア・家具の様式、カラーコーディネート、照明計画、素材、家具・ディテール等を中心として、インテリアの計画に関する基礎理論と手法について学ぶ。

講義の位置づけ：インテリアプランナー等の資格取得のみに限定しない、設計製図に展開可能な基礎知識を学ぶ。

講義の概要：パワーポイント、映像を用いた講義に加え、インテリアに関するCGシミュレーションを取り入れ、具体的な計画手法を体験的に学習する。また、ショールームなどの見学会も実施する。

講義の方法：パワーポイント、映像を中心として視覚的な講義を進める。さらに、講義内容を補完するため、課題、ショールーム見学、CGシミュレーションにより理解を深める。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度		○						◎					○			○	○		○	○	○

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
建築・家具の様式	4	建築様式、家具、インテリアの理解	歴史、建築様式、ロココ、モダンデザイン、アールヌーヴォー、アールデコ、名作家具、現代の家具デザイン、見学会	A2, C3, E3
色彩デザインと効果	3	空間デザインにおける色彩デザインの実例とその効果、素材と色彩	カラーコーディネート、補色、コントラスト、後退色&前進色、カラーシミュレーション	A2, C3, E3
照明デザインと効果	2	空間デザインにおける照明デザインの方法と効果、インテリアとしての自然光、照明デザインの現場、シミュレーション	照明の種類・特徴・効果、照明計画、見学会	A2, C3, E3
インテリアの構成素材	1	石材、木材、紙と空間デザイン	石材と空間デザイン、紙による空間デザイン、見学会	A2, E3, D4
インテリアのシミュレーション	4	インテリアのCGシミュレーション	家具配置、照明計画のCGシミュレーションによる検討	E3, F1, G
まとめ	1	インテリアに関する試験の実施		

評価方法：A2、C3については期末試験によって理解度を評価する（40％）。B2、E3、G2については具体的な課題を課し、その提出物を評価する（60％）。

教科書等：必要に応じて配布資料を用いる。

備考：適宜、見学会を授業時間外に実施するので、掲示によく注意すること

科 目 名：環境材料学

科目英文名：Environmental Materials

担 当 者：土井 正・酒井 英樹

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：2 年生・後期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：居住環境を構成する材料を理解し、持続的環境維持との関係を理解すると共に、建物と設備の耐用年数の違いや、建物使用中の問題とこれを事前に予防する技術を学ぶ。

講義の位置づけ：居住環境を構成する材料の重要性と、これを適切に選択するための基礎的知識となる。

講義の概要：持続的環境維持のために環境材料の重要性を概説し、材料の劣化について、材料の耐久性能、環境の劣化条件、施工条件、維持管理条件との関係について解説する。持続的環境維持にかかわりの深い紫外線劣化と紫外放射の特性、生物劣化についても解説する。

講義の方法：地球環境保護に関連する内容を大きな視野で捉えながら、直面しやすい具体的問題点とその解決法などについて解説する。

学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				○		○					◎	○	○								

授 業 内 容

テ ー マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
学ぶ意義	1	地球環境問題とLCA・資源循環などを概説し、環境を構成する材料の耐用年数とその重要性を学ぶ。	地球温暖化、資源問題、廃棄物、リサイクル、建築物の環境性能	B1 D4
木材・木質材料の特性	4	持続的再生産可能な環境材料である木材とその応用材料である木質材料の特性を学ぶ。	木材科学、木材の物理、木材の化学、木材の劣化、木質材料の製造とその特性	B1 C1 D2
生物劣化とその予防	2	資源循環利用における生物劣化の意味とその予防法について学ぶ	生物劣化、防腐・防蟻・防虫措置、エコマテリアル	D2 D3
高分子材料の特性	2	高分子材料の種類、その物理・化学的性質を学ぶ。	高分子の種類、合成高分子の用途、塗料、接着剤	C1 D2
材料の改質と機能性付与	4	環境材料の機能性や性能向上のための材料の改質、機能性の付与について学ぶ。	防汚性、撥水性、自己浄化作用、クールルーフ	D2
紫外放射による環境材料の劣化	1	紫外放射が環境構成材料に与える影響について学ぶ。	太陽放射と紫外放射、劣化・褪色、蓄光材料	D2
まとめ	1	環境材料学		

評 価 方 法：B1は地球環境問題の概略の知識を、C1は身近にある材料の知識を、D2、D3は環境構成材料の知識とその適用に関する理解度を、D4は建物の運用などに関する基礎知識を定期試験で評価する。

教 科 書 等：特になし。授業中にプリントを随時配布。

科目名：居住環境工学Ⅱ

科目英文名：Environmental Control in Architecture Ⅱ

担当者：永村 一雄

種別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：2 年生・後期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：健全な室内環境設計に必要な、空気（換気）・防露・音・振動・光などの基礎技術を獲得する。さらに都市など広域な環境で生じている問題を把握し、原因を追求できる基礎知識を身につける。

講義の位置づけ：建物の部位構造の知識を前提とする。建物の物理現象を扱う数理力も必要。都市域など広域な問題を扱うためマクロ的な視点を獲得してほしい。「建築設備」の専門知識の土台科目でもある。

講義の概要：高断熱・高気密建物に必須の計画換気・空気質と防露、および集合住宅で問題となりやすい音・振動についての基礎知識、道路騒音など不快な振動伝播の物理機構の把握と防音技術を習得する。最後に、パッシブ建築や環境共生、最新の技術トピックを講義する。

講義の方法：講義と並行して演習問題を配布する。演習問題を解いて理解を確認すること。初回講義時に配布される教科プリントや参考書リストに記載の書籍による予習を行うこと。考えを的確に相手に伝えるための練習にもなるので、不明点などは研究室まで積極的に担当者に聞きに来ること。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度						○						◎			○						

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
居住環境工学Ⅱの意義・目的・講義概要	1	問題解決のための技術的対策とのかかわりを環境工学の視点でとらえる	法律・付加価値・社会的倫理 環境と物理要素、人体への影響 単位、影響度と感度	C1 D3 E2
空気質と計画換気	3	高断熱・高気密化する建物に必須の計画換気を学ぶ	換気の種類、流体力学初歩、開口特性、風力、温度差（重力）、化学物質許容濃度、ホルムアルデヒド	C1 D3 E2
音・振動	4	静かな環境をつくりだすための基礎知識とそれを生かす具体的な計画・設計の技術を獲得する	単位・用語、エネルギーレベル、演算系、心理量、吸音・遮音、騒音防止、残響、振動	D3 E2
結露と防露計画	3	結露の原理を学び、これを防ぐための技術を獲得する	気候、空気線図、湿度、水分移動飽和、発生位置、防湿層と位置、結露発生の推定、湿気定常計算	D3
光・視環境	2	視覚のメカニズムと適切な光環境の構築に必要な基礎技術を学ぶ	日照の基礎、単位、日照率、照度、照明全般、視覚メカニズム、読みやすさ	D3 E2
パッシブ・環境共生・話題の設備技術	1	俯瞰的に捕らえる枠組みとしてシステム理論による事例紹介、最新設備技術	クールチューブ、ルーフポンド、ダイレクトゲイン、ヒートアイランド、新素材技術、熱搬送設備	C1 D3
まとめ	1	上記内容に関して到達度を確認する		

評価方法：C1, D3, E2について、毎回演習（20％）と定期試験（80％）で評価。試験時資料持込み可。評価の視点は、快適な空気環境、静かな音環境、省エネに配慮した建物や都市のあり方の論理的な理解。

教科書等：大野治代ほか：住まいの環境（図解住居学5）彰国社。これに加えて追加事項をプリントで配布する。副読本や参考書のリストは初回に配布する。適宜、T.V. 記録の視聴や新聞記事配布を通して、現在の社会の要請がどのようなものかに触れる。

備考：本講義は、細部にわたる知識の記憶でなく、建物のなかでどのような物理要素が住まい手に影響を及ぼすのか、その効用と量的な見積りを物理機構の理解で把握することが肝要。



科目名：建築・環境法規

科目英文名：Building Standard Law and Related Laws

担当者：（片岡 正和）

種別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：2 年生・後期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：住宅等の建築物は生活の基盤として構築され、それらが集積してまちや都市を形成している。そのため、建築物は火災、台風、地震等の災害時に被害が拡大しないよう個々の性能を高めるとともに、周囲と調和した良好な環境を形成するよう建築される必要があり、これらの目的を達成するため建築基準法では様々な規定が定められている。本講義は、建築基準法の基本的な事項を習得し、建築物に関する理解を深めることとする。

講義の位置づけ：建築基準法などの法律には、建築物の着手前の基本設計段階から竣工後の維持管理に至るまで、建築主や設計者等が遵守すべき重要な項目が定められている。また、一級建築士などの資格を得るうえでも必須の科目となっている。

講義の概要：建築基準法では建築物を安全・快適に利用するための基準など、広範な規定が定められている。本講義では、まず法律の基本的な枠組みを概説し、その後、単体規定や集団規定等の基礎的な事項について解説する。

講義の方法：講義は教科書及び参考資料を利用して行う。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度			○			○							◎				○				

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
建築基準法の目的と構成	2	建築基準法の目的や構成、法令用語の説明など法律の基本的な概要について解説する。	法の目的と構成、法の枠組み、条文の構成、法令用語	A3 D4
建築基準法の基本事項	2	建築物と敷地に関する用語、建築手続きに関する用語など法律の基礎となる用語について解説する。	建築物と敷地に関する用語、防火に関する用語、建築手続きに関する用語、面積と高さの算定方法	C1 D4
単体規定	4	個々の敷地と建築物の安全、衛生、環境に関する規定（単体規定）について解説する。	一般構造、建築設備、防火関係の規定、避難設備など	D4
集団規定、関連法規	4	良好なまちづくりを進めるために定められた建築物の用途、形態などの基準（集団規定）について解説する。	道路、地域地区と用途地域、容積率と建ぺい率などの制限、高さ制限、防火地域性、都市計画法など	C1 D4
制度規定	1	法律を運用するために必要な手続きなど定めた規定（制度規定）について解説する。	認可と許可、検査など	D4 F1
演習問題	1	学習した内容について演習問題を実施し、定期試験に備える。	演習問題とその解説	A3, C1 D4, F1
まとめ	1			

評価方法：定期試験により評価する。（A3）については建築法令の役割に対する理解度で評価する。（C1）については規定数値の算出法などの理解度により評価する。（D4）については設計など建築行為に不可欠な建築基準法の基礎的な理解度により評価する。（F1）については、説得力など自分の考えの表現能力を評価する。試験時には、テキスト・資料等の持込を許可する。

教科書等：建築行政／片倉健雄・大西正宜・建築法制研究会／学芸出版社  
備考：

科目名：建築構造学I及び実験

科目英文名：Structural Design and Analysis I and Experiments

担当者：土井 正・生田 英輔

種 別：講義＋実験 単位数：3 時間数：☆☆ 学年・学期：2 年生・後期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：わが国の伝統建築および在来軸組み工法など木造建築物の構造思想について、歴史・風土を通して学ぶ。木造建築物の構造安定性について理解し、許容応力度設計法、壁量計算法を習得する。改正建築基準法および性能表示制度における木構造の構造安定性について学ぶ。

講義の位置づけ：設計製図III（木造住宅設計）において、基礎配置、柱配置および耐力要素の配置、部材断面の決定など合理的な構造計画を行う能力を習得する。

講義の概要：前半において、学習の意義、伝統工法、在来軸組み工法および枠組み壁工法について成り立ち、構造思想の違いについて理解する。その後、構造要素と力の流れを学び、材料特性と木構造の相互関係、壁量計算法、各部材、耐力要素の構造計画を学ぶ。

講義の方法：建築一般構造で既習の木造建築物の構成や仕組み、各部位の名称などを復習する。次に、工程順に各主要構造部材の断面設計ができるよう構造計画の要点を学ぶ。講義中の演習により、木造建築物の構造安定性に関する数値の意味を理解する。各テーマ毎に簡単なモデル実験を行い、木質構造および木質材料の特性についての理解を深める。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				○		○	○				◎	○	○	○				○			

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
木造建築物の概要	2	伝統工法、在来軸組み工法および枠組み壁工法の構造思想の違い、構造的特長について学ぶ。	伝統工法、在来軸組み工法、枠組み壁工法、震災の教訓、構造計画の意味、耐久性	D3, E1
建物に加わる力	4	荷重および外力などの構造体における力の流れを理解する。	長期荷重、短期荷重、固定荷重、積載荷重、地震力、風圧力、設計震度	D2
製材、木質材料の強度特性と耐力要素	4	製材および構造用合板、集成材など材料の強度特性と構造部材や耐力要素の配置の関係を学ぶ。	脆性・靱性、圧縮強度、引張強度、曲げ強度、めり込み、せん断	B1, C1, D2
耐力要素の設計	9	耐力壁の鉛直荷重及びおよび水平荷重に対する構造計画、許容応力度計算法、壁量計算について学ぶ。	垂直構面、水平構面、耐力壁の形式、せん断、面外曲げ、圧縮、耐力壁、準耐力壁等、壁倍率、存在壁量、必要壁量、偏心、耐力壁線	D2, E1, F2
接合部の設計	4	仕口、継手および接合部補助金物について学ぶ。	仕口・継手、金物、釘、せん断耐力、引き抜き力	D2
基礎の設計	4	地盤、地耐力に応じた基礎の選択および設計を学ぶ。	地盤、地耐力、布基礎、べた基礎、アンカーボルト、ホールダウン金物	D2
内外装仕上げ工事	2	屋根架構、主要軸組み以外の構造要素、造作、内外装仕上げについて。	屋根架構、床組み、造作、内装材、外装材	D1, D2
まとめ	1			

評価方法：定期試験（60％程度）、演習及び実験レポート（40％程度）の結果によって行う。D2, D3, D4については、部材断面の決定、必要壁量の算出方法の理解度、C1は空間設計上の構造計算の理解度、E1は性能表示制度における構造の安定性の理解度により評価する。F2はレポートにより評価する。

教科書等：指定しない。資料を配布する。  
備考：木造建築現場の自主見学を求める。

科目名：住文化史Ⅱ

科目英文名：Cultural History of Housing (Ⅱ)

担当者：谷 直樹

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：2 年生・後期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：世界の住文化を知ることは、建築、都市などの分野において国際的に活躍する上で必須の要件である。本講義では、海外における建築の歴史的展開、都市の形成と住環境の変遷について解説し、それらの基礎的知識の取得と包括的な理解を目指す。

講義の位置づけ：建築や都市に対する歴史的理解は、住宅を含む建築一般、都市の設計・施工のあらゆる段階で必要となる。それは、ゆるぎない規範を提示する場合もあれば、新たな可能性を示唆する場合もある。本講義の内容は、設計関連授業はもちろん、広範な領域の授業の基礎的知識としても重要である。

講義の概要：東洋、西洋における建築と都市を取り上げ、その形態の変遷と特質、社会的、文化的、技術的背景から分析、考察する。さらに歴史的環境をめぐる今日の課題として、自然環境との共存、景観問題、保存・活用の現状についても検討する。

講義方法：講義は、図版資料を示し、必要に応じてビデオなどを使って視覚的な把握を目指す。さらに、現存する建物や町並みを見学し、実物の空間体験を通じて理解を深める。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度	◎	◎	◎				○	○	○			○	○		○	○					

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
中国の都市と建築	2	中国の歴史都市、各地の民居と住文化について解説する。	洛陽、長安、都市構造、都市建築、四合院、世界遺産・麗江老街	A1・A2・A3・D3・D4・E2・E3
南アジアの都市と建築	1	古代文明の発祥の地における建築・都市について解説する。	都市文明の勃興、古代都市の諸施設、インド建築	A1・A2・A3・D3・D4・E2・E3
エジプト・メソポタミアの都市と建築	1	メソポタミア・エジプトの二大文明圏の都市と建築を解説する。	エジプト、メソポタミア、ペルシャの宮殿、神殿、都市、住居	A1・A2・A3・D3・D4・E2・E3
古代ギリシャ・ローマの都市と建築	2	西洋建築のルーツとされる古代ギリシャ、ローマの都市と建築。	ギリシャ・ローマの神殿、住居、公共施設、建築技術、材料	A1・A2・A3・D3・D4・E2・E3
ロマネスク・ゴシックの建築	2	中世の建築文化を教会堂建築を通して考察する。	教会堂建築、ロマネスク、ゴシック、建築技術の展開	A1・A2・A3・D3・D4・E2・E3
ルネサンス・バロックの建築	2	近世の建築的展開を都市文化の視点から追う。	都市住居、宮殿、別荘、公共建築、教会堂建築	A1・A2・A3・D3・D4・E2・E3
近代の建築	2	産業革命以降の建築の展開とその性格について解説する。	産業革命と建築、19世紀の造形運動、前衛の建築、近代主義建築の成立、近代建築運動の拡大	A1・A2・A3・C2・C3・C4・D3・D4・E2・E3
歴史的建造物の見学	2	関西に現存する建築遺構の見学。	歴史的住宅建築、現地調査	A1・A2・A3・C2・C3・C4・D3・D4・E2・E3
まとめ	1			

評価方法：学習・教育目標のAを重視し、歴史的建造物に対する基礎的知識を確認し、歴史的環境をめぐる考察力を問う。また、定期試験と見学会の参加によって評価する。

教科書等：配布資料

備考：参考資料、『東洋建築史図集』彰国社、『西洋建築史図集』同

科 目 名：都市計画

科目英文名：Urban Planning

担 当 者：藤田 忍

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：2 年生・後期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：生活およびその環境の問題を住宅単体から居住地、都市の範囲に広げて把握し、それらを支えている、法制度、計画理論、計画技術を理解する。さらに近年の市民まちづくりの動きをつかむ。

講義の位置づけ：住居学の中では、計画系の科目の前提となる幅広い専門的知識と総合的かつ体系的な識見を獲得することを目標とする科目である。3 回生前期の居住地計画論、3 回生後期のまちづくり演習の基礎に位置づけられる。

講義の概要：近代都市計画の起源から現代の都市計画理論を概観しながら、都市問題とそれに対する都市計画、さらに近年の市民まちづくりの関係について講義する。さらに、住民の生活と結びつきたいくつかの視点を取り上げ、都市のあり方について論じる。

講義の方法：教科書を用いて、都市計画思潮、制度を歴史的、体系的に学ぶと同時に、タウンウォッチングの中で、様々な市街地の特徴を把握し、ワークショップによって議論をする中で、問題意識を深める。また、先進事例についてヴィジュアルな材料（ビデオ、パワーポイント）によって理解を深める。

学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度			○				◎		◎	◎			◎				○	○	○	○	○

授 業 内 容

テ ー マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
はじめに	1	都市とは何か、都市を計画するとはどういうことか、市民まちづくりの30年史	都市、市民、市民まちづくり	A3, C2, C4
近代以前の都市	1	都市史 都市論	集落、4 大文明、アゴラ、フォルム、環濠集落、バロック都市	C2, C4, D1, D4
西欧の近代都市計画の流れ	2	都市問題、行政都市計画、社会思想としての都市論、建築家による都市論	オーエン、ハワード、田園都市論、マンフォード、ガルニエ、近隣住区論、ラドバーンシステム	C2, C4, D1, D4
都市を見る	2	タウンウォッチング&発表会	住宅、都市施設（道路、公園）、オープンスペース、土地利用	A3, F1, F2, G
我が国の近代都市計画の流れ	2	近代都市計画法制度、住宅政策、開発のコントロール	市街地建築物法、旧都市計画法、同潤会、公営、公団、スプロール、木賃アパート、ミニ開発、	C2, C4, D1, D4
都市を計画する	1	都市基本計画、都市計画マスタープラン、	総合計画、土地利用計画、公園緑地、交通、地区計画	C2, C4, D1, D4
都市をつくる	2	都市計画事業、ニュータウン計画論	土地区画整理（換地、減歩）都市再開発、千里、泉北ニュータウン	C2, C4, D1, D4
都市を制御する	1	都市計画法制度（都市計画法、建築基準法集団規定）	線引き、用途地域、密度規制、形態規制、建築協定、総合設計	C2, C4, D1, D4
都市を改善する	1	環境の調査、診断と計画、	市民まちづくり、改善型まちづくり、ワークショップ	C2, C4, D1, D4
まとめ	2			

評価方法：試験および出席点。C2, C4, D1, D4については、都市の問題、それに対する思想、政策、計画技術の役割、それらを歴史的にかつ現代社会のテーマとして掴んでいるかを問う。F1, F2, Gについてはタウンウォッチング&発表会における、グループ作業、プレゼンテーションにより評価する。

教科書等：地域共生の都市計画（学芸出版社）

科 目 名：防災・安全科学

科目英文名：Disaster Prevention and Safety Science

担 当 者：生田 英輔・（北後 明彦）

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：2 年生・後期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：建築設計や生活の質を考える場合、快適性、利便性に加えて安全性は欠くことのできない重要な要素のひとつである。本講義では、地震などの自然災害のみならず火災などの日常災害を対象としてそのメカニズムと防災・安全対策について講じ、建築の設計・計画に応用させる。

講義の位置づけ：建物の構造に関する知識を踏まえて本講義を受講すると一層理解が深まる。本講義で得られた知識は、建物の設計や計画においてその安全性確保について具体的に応用される。

講義の概要：住宅を中心とした居住空間における防災・安全の問題について講ずる。対象とするものは、地震をはじめとする各種の自然災害および日常生活において発生する住宅内事故などである。また、犯罪もとりあげ住棟配置やコミュニティの中での防犯計画について述べる。

講義の方法：災害・事故のメカニズムを明らかにした上で、その防止策について解説する。とくに被災現象については、理解を深めるためにビデオやDVDなど映像を用いる。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度			○	○		◎	○				○	○		○							

授 業 内 容

テ ー マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
概論	1	住宅を中心とした居住空間の計画・設計にあたり防災・安全について学ぶことの意義について述べ、この科目において講ずる内容を概観する。	災害論、素因、誘因、事故、建築防災計画	A3・B1
地震災害 （建築と地域の地震災害）	4	地震のメカニズムを理解させ、発生する地震災害の特性を踏まえた防災対策について考える。	地震のメカニズム、地盤と震害、耐震・免震・制震、地震応答計算、地震火災、津波、避難行動、家具転倒、落下物、人的被害	B1・C1・C2・D2
火山災害・崩壊災害 （災害と暮らし）	1	火山形成のメカニズムと火山と人の暮らしについて述べる。各種の崩壊災害とその防止策を示す。	火山活動の生活への影響、火山災害の特徴、宅地造成、斜面崩壊と住宅被害	B1・C2・D3
台風・洪水災害 （建築と地域の風害、水害）	1	台風のメカニズムおよび風害、水害などの複合災害的側面について述べる。また、大阪の高潮対策および近年の都市水害について考える。	複合災害、高潮、洪水、風害と地形、耐風構造、地域開発と洪水災害、都市の水害、地下室の浸水被害	B1・C1・D3
雪氷災害 （耐雪建築）	1	降雪のメカニズムおよび被害の実態を理解し、わが国の雪氷災害の問題点について考える。	豪雪地帯、屋根雪処理（融雪屋根、耐雪構造）、除排雪システム	B1・C2・D3
火災 （建物火災）	2	平常時火災の実態および出火と延焼のメカニズムを理解させ、防止策と避難計画について述べる。	出火、延焼、防火、延焼遮断帯、住宅火災、避難計画、防火設備、高齢者福祉施設の防火対策	C1・D2
日常生活事故 （建築災害）	3	日常災害について述べ、住宅内事故の原因と対策を明らかにする。安全性からみた高齢者・障害者対応住宅のあり方について考える。	日常災害と非日常災害、建築災害、日常生活事故、人口動態統計、救急出動記録、バリアフリーとユニバーサルデザイン、高齢者・障害者、災害弱者	C1・E1
犯罪 （建築防犯）	1	住まいおよび居住地の防犯計画について述べる。	領域性、監視性、死角、ホームセキュリティ、防犯設備、防犯性能	C2・E1
まとめ	1			

評価方法：A3については、住居・建築における防災技術が社会や人間生活に与える影響についての理解度などを、B1については物理学や地学などの基礎的知識に基づき、各種災害のメカニズムを理解できたか、また数理的側面の理解について、C1、C2およびD2、D3については住宅・建築の構造・設備・材料的知識や地域の特性に関わる防災・安全性の確保についての理解と評価能力およびそれらに基づく防災・安全計画立案能力などを、またE1については防災・安全性を確保するための空間計画やデザインの能力などを定期試験（70%）およびレポート（30%）によって評価する。

教科書等：必要に応じて資料を配布する。  
備考：

科目名：設計製図Ⅰ・第1課題＋第2課題

科目英文名：Design and Drawing I

担当者：上田 博之・生田 英輔・（澤村 昌彦）・（長瀬 りか）

種別：実習 単位数：実2 時間数：☆☆☆☆ 学年・学期：2回生・前期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：建築設計図の図面表記のしかた、住宅建築の設計の考え方・技術を習得することを目的としている。

講義の位置づけ：基礎設計製図で学んだ図面表記方法をさらに深く理解し、建築の設計方法の基礎を習得する。  
またプランニングの方法（エスキースの方法、エスキース模型作成など）、プレゼンテーションの基礎的技術を習得する。

講義の概要：第1課題 RC造集合住宅の住戸の設計

延べ面積50 m<sup>2</sup>程度のRC造集合住宅の住戸（各辺6mの立方体）を設計する。

第2課題 木造小規模施設の設計

延べ面積150 m<sup>2</sup>程度の「海の家」または「山の家」を設計する。

の2課題を行う。

講義方法：課題内容・資料をプリントにして配布する。第1課題では、図面の表記法、住宅の平面構成・断面構成などを解説し、そのプランニング、設計を行う。第2課題では、木造建築設計の方法、小規模施設・住宅計画など適宜解説し、設計を行う。これらの2課題を通して、プランニング、エスキースの方法、プレゼンテーション基礎的技術を講義する。

学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度										◎	○	○		○	○		○	○			

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
第1課題：RC造集合住宅の住戸の設計	21	延べ面積50 m <sup>2</sup> 程度のRC造集合住宅の住戸（各辺6mの立方体）の設計	プランニング、エスキース方法、住宅計画、図面表記法 平面図・断面図の意味・記載内容・記述方法、平面構成の意味・記載内容・記述方法、断面の構成方法	D1, D2, E1, E2
第2課題：木造小規模施設の設計	24	延べ面積150 m <sup>2</sup> 程度の2階建木造小規模施設の設計（提出図面は1/100の平面図・断面図・立面図、模型とする）	木造図面の表記方法 敷地と建築の関係 施設構成の方法 プレゼンテーション基礎技術	D2, D3, E1, E2, F1, F2

評価方法：評価は提出物により行う。D1, D2については、図面表記方法の理解度について評価する。  
D3, E1, E2については、設計作品の提案性により評価する。F1, F2については、設計作品の提案性、完成度により評価する。

教科書等：必要な資料を配布し、講義中に参考文献を指示する。

科目名：設計製図Ⅱ・第3課題（＋αの機能を持つ住宅）＋第4課題（保育園）

科目英文名：Design and Drawing Ⅱ

担当者：谷 直樹・森 一彦・小伊藤亜希子・三浦 研・生田 英輔・（岡本 健志）・（ 未定 ）

種 別：実習 単位数：実2 時間数：☆☆☆☆ 学年・学期：2回生・後期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：①模型材料、図面作成の基礎を身に付けること、②RC構造の図面作成を身に付けること、③敷地周辺や計画に求められる条件の整理を行い、計画・設計能力を養うこと、④ランドスケープを含む屋外空間の計画・提案能力を養うこと

講義の位置づけ：設計製図Ⅱでは、＋αの機能を持つ住宅の設計を踏まえ、さらに規模の大きい、保育園の計画に取組む

講 義 の 概 要：設計課題は＋αの機能を持つ住宅（第3課題）と保育園（第4課題）の2つで構成される。第3課題の＋αの機能を持つ住宅では、RC構造の理解のほか、模型作成の理解と習得、着彩方法に応じた用紙の選定について実習を行う。保育園（第4課題）では、屋外空間やランドスケープの図面化を学ぶ。いずれの課題も、指定された敷地周辺のフィールドサーベイを実施したうえで、企画立案を行い、課題作成に着手する。

講 義 方 法：それぞれのテーマについて説明を行い、見学等を実施後、模型と図面の作成に着手する。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度			○	○			◎				○					◎	○		◎	◎	◎

授 業 内 容

テ ィ マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
模型作成演習	4	模型の作り方を理解する	模型材料、模型作成	A3, C2, G
模型演習講評会	1	各自が素材を工夫し作成した模型について発表し、教員の講評を受ける	表現方法と他者のプレゼンテーションを知る	G
計画地の見学	2	敷地条件を読み取る	現地見学、参考事例の見学	C2
コンセプト発表	2	設計案のコンセプトをまとめ、発表する	プレゼンテーションスキル	C2, G
エスキース・図面・模型の作成	1 3	RC構造等の平面、立面、断面の書き方を学び、設計案を第3者に伝えるためのプレゼンテーション図面の作成を行う	図面の描き方、構造の計画、ドローイングスキル、プレゼンテーション図面の作成方法	A3, B1, C2, D2, E3, F1
第3課題講評会	2	完成図面の講評会を行い、講評を受ける	設計案のプレゼンテーションの方法	G
保育園における子どもの生活、保育園の見学会	3	講義及び見学により、保育園における子どもの生活の流れと空間機能、求められる空間の質について学習する	保育園の1日 子どもの視点 子どもの成長と保育空間 事例の見学	C2
保育園の空間計画	3	保育園の室構成、基準、平面計画の進め方等について学習する	室構成、求められる面積、安全、子どもの寸法	C2
即日設計とコンセプト発表	7	即日設計を行い、それを元に、コンセプトをまとめ、発表する。	プレゼンテーションスキル	C2, G
エスキース・図面・模型の作製	6	求められる空間と面積を検討しつつ、設計コンセプトを固める。平面・立面・断面図によって表現しながら計画を進める	模型づくり 配置計画 平面・立面・断面図	G E3
第4課題講評会	3	各自が作品を発表・説明し、教員の講評を受ける	表現方法と他者のプレゼンテーションを知る	G

評 価 方 法：第3課題、第4課題ともに、模型および提出図面によって評価する。提出の遅れは減点する。

教 科 書 等：必要に応じて資料を配付するほか、スライドなどを用い、前年度作品を紹介する。

備 考：すべての課題を提出すること。課題の未提出は認めない。実習時間内は実習に集中すること。課題提出による以外の早退は認めない。未記入・粗雑など明らかな欠陥がある場合は減点する。「提出・評価」は作品として評価する。提出の遅れは、1週間ごとに5%減点する。授業に30分以上遅れた場合は出席として認めない（ただし事情がある場合は申し出ること）。



科目名：基礎生活情報学実習

科目英文名：Information Processing

担当者：多治見左近

種別：講義 単位数：実1 時間数：☆ 学年・学期：2・3回生・前期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：PC 機器などの情報処理技術の習熟・理解は現代生活に必須のものとなってきた。本演習では PC 機器操作と情報機器やファイルの仕組みについての基礎的な知識とアプリケーションソフトによる処理技術を解説するとともに実際に操作することで感覚的に理解する。

講義の位置づけ：応用生活情報学や CAD・CG デザイン演習の入門的・基礎的な知識と情報機器操作技術を獲得することを目的としている。また全学共通科目の情報処理関連科目との関連も深い、専門分野で必要な知識・技術を中心としている。

講義の概要：一般的に使用されている Windows 用のアプリケーションソフトの操作方法を説明し、習熟するとともに、とりわけデータ・ファイルについての理解を深めることに重点をおく。

講義方法：基本的な知識を説明した後に演習を行う。毎回小課題を実習するが課題レポートは毎回提出するのではなく、テーマのまとまりごとに提出する。また応用生活情報学実習とは、時間割上は一体になっているが、履修は別であり切り離して履修できる。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度					◎																

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
データと機器の構成	1	ファイルの種類・その仕組みと PC 内部のデータ構成を説明する	ファイル・フォルダ・保存・内部表現・拡張子・画像ファイル	B2
表計算ソフトの操作	5	表計算ソフト操作の基本的な方法および便利な処理方法を説明し簡単な分析を行う	セル書式・表書式・基本操作・印刷・ソート・表集計・数式・関数・マクロ・分析ツール・グラフ	B2
文書作成ソフトの操作	4	文書作成ソフト操作の基本的な方法と便利な処理方法を説明し、文書を作成する	フォント・表作成・文書書式・印刷・数式・オブジェクトの挿入・目次等・差し込み印刷	B2
アプリケーションソフトの複合利用	5	表計算・文書作成・画像処理の各ソフトを総合的に利用してプレゼンテーションを作成する	オブジェクト・コピー・ペースト・データ形式・データの形態・文書レイアウト・画像データ形式・Web ページ	B2

評価方法：複数の課題レポートにより、操作方法の習熟とできばえを評価する。授業や資料に示した操作や表現を行っていない場合は標準点よりも減点することがある。課題レポートは 4～5 回程度を予定している。時間内に作成・提出するので欠席すれば提出できないことがある。課題レポートすべてを提出しないと不合格になる可能性が高い。

教科書等：特に指定しない。資料を配付する。またプロジェクターなどを用いる。

備考：時間外に教室の機器を使用する場合は担当者に申し出ること。実習室の PC が使いづらい場合がある。使いやすい席に移動して実習を行うことが望ましい。

科目名：応用生活情報学実習

科目英文名：Application of Information Processing

担当者：永村 一雄

種別：演習 単位数：演1 時間数：☆ 学年・学期：2・3回生・前期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：情報処理技術は、現代生活のリテラシーのひとつである。情報処理の基本である電子情報を、ファイルという実態に置き換えて、それを活用する技術を身につけるとともに、実際の処理が、プログラムと呼ばれるコードで実行される様子を演習で体験し、具体的な処理技術を獲得する。

講義の位置づけ：全学共通科目の情報処理関連科目、ならびに本学科の基礎生活情報学で基礎的な知識を得ておくことが望ましい。

講義の概要：情報の電子化の手段、情報の加工技術、その実態としてのファイルの性質と取り扱い方、加工と実際の処理にともなうプログラミングを講義し、プログラミング言語による演習を行う。

講義方法：簡単な知識を教授した後、毎回演習課題を与え、それを授業時間内にこなして提出する。プログラミングが大半を占めるが、自分のコーディングとそれによって稼動するPCの処理との整合を実感すること。最後に各人工夫をこらした自主開発作品を作成する。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				◎	◎																

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
電子情報の意義 講義概要	1	居住環境における情報処理技術 ソフトウェアとハードウェア コード、プログラム	2進数、PC、WS、オープンウェア	B2
プログラミング 基礎 入出力、初歩の演算	2	簡単な入出力文、簡単な算術演算による プログラミング	画面出力、プロンプト、コンパイル 実行、編集、エディタ、コード 入出力文、演算子	B2
判断・分岐	2	条件判断・処理過程による分岐	判断文・ジャンプ	B2
反復	2	条件付・条件なしの繰り返し	繰り返し文、条件付繰り返し文 無限ループ、カウンター	B1 B2
宣言と変数	2	変数の使用	宣言文、変数の種類、配列、初期値	B1, B2
関数	2	サブルーチン化の仕組み	主・副関数、ローカル・グローバル	B1, B2
参照	2	引数の渡し方	参照渡し・値渡し、引数、戻り値	B2
課題：グラフィックス	2	描画の仕組みの理解	RGB、メモリ、領域、規格	B2
まとめ	1			

評価方法：主に (B1, B2) を評価するため、毎回の演習とその課題の提出を義務づける。採点基準は、提出された課題について、意図したとおりプログラムが実行されるか否かである。毎回の課題はその日の学習内容を反映したものである。最後に大きめの課題を出し、創意工夫の跡もみる。各回の提出50%、定期試験分50%で採点し、確実に技術が獲得できたかをみる。

教科書等：毎回プリントを配布。最初の授業で参考書リストなどを配布。授業時間を超えて演習を行いたい学生は、教室使用の許す限り利用して欲しい。ただし、事前に担当者まで申し込むこと。

備考：

科 目 名：居住空間設計論

科目英文名：Design and Drawing

担 当 者：竹原 義二

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：3 回生・前期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：建築は快適な空間の中で生き続ける。建築を造るということはどういうことなのか、人間にとって建築とは何なのかを問い直してみる必要がある。本講義では人間が住むための空間の成り立ちを秩序付けて解き明かしていく。そこから空間がどのような意味を持つかを知る。

講義の位置づけ：この講義では、建築の空間を構成する部位を歴史的な視点から学び取る。建築空間の成立の過程を知る中で、自分にとっての空間のイメージを生み出す。

講義の概要：建築空間は用途によって多様な空間に分かれるが、建築を成立させている空間のあり方について説明する。ひとつの建築が完成するまでの過程を解説することで、空間の連続性を明らかにする。さらに、実物の見学を通じて建築空間を体験する。

講義の方法：講義は資料を示しながら行うが、空間を把握するために見学を行う。

学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度							◎	◎						○							

授 業 内 容

テ ー マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
建築との出会いについて	1	建築との出会いについて話し、どのように建築を考えたかを述べる。	自我を形成する核となる建築との出会い、人との出会い	E1
建築空間の概念と目的	1	建築を構成する空間の手法を説明し、空間秩序について述べる。	アクロポリスの丘、ギリシャ神殿、パンテオン	E1
空間を囲いとする	3	部屋について、床について、壁について、屋根について、柱について。	伊勢神宮、バルセロナパビリオン、ティオティワカン、箱木千年家、東大寺	C2
空間のつながり	3	外部空間と内部空間のつながりについて説明する。	龍安寺	C2
窓について	2	空間を認識する光と闇の関係について解説する。	修道院の闇とギリシャの列柱に落ちる影を解き明かす	C2
開口について	2	開くことと閉じること	閑谷学校、日下部邸、吉島邸、演慶堂、ガラスの家	C2
空間を構成する家族の変遷について	2	L D K の解体、個と社会	上野千鶴子、山本理顕、篠原一男住宅論	E1
空間を構成する素材について	1	技術と道具	混構造による実例	E1

評 価 方 法：Cについては、建築の空間を構成する部位の理解度を講義中のレポート、スケッチ、図面、模型の提出によって評価する。Eについては、建築を成立させている空間のあり方についての理解度を講義中のレポート、スケッチにより評価する。3 / 4 以上出席すること。20分以上の遅刻は出席と認めない。但し、事情がある場合は申し出ること。

教 科 書 等：初回の授業で教科プリント及び資料を配布。

備 考：

科 目 名：居住地計画論

科目英文名：Residential Area Planning

担 当 者：藤田 忍

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：3 回生・前期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：生活およびその環境の問題を主として居住地レベルでとらえ、市民主体のまちづくりの動きを知り、生活者としてさらにそれを支援する専門家としての高い識見を獲得することを目指す。

講義の位置づけ：住居学の中では、計画系の科目の前提となる幅広い専門的知識と総合的かつ体系的な識見を獲得することを目指す科目である。2 回生後期の都市計画を受け、3 回生後期のまちづくり演習へと発展させる科目として位置づけられる。

講 義 の 概 要：生活圏域の広がりを段階的に捉え、居住地レベルに対応した問題とそれに対応した市民まちづくりの最新の動向を掴む。

講 義 方 法：先進的なまちづくり事例について教科書、ヴィジュアルな材料（ビデオ、パワーポイント）や資料によって掴む。居住地の問題の把握、分析、提案をワークショップによって体験的に身につける。

学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度			○				◎		◎	◎			◎				○	○	○	○	○

授 業 内 容

テ ー マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
はじめに	1	都市計画からまちづくりへ	居住地とは、市民まちづくりとは	A3, C2, C4
居住地の形成過程、 様々な居住地	1	大都市の市街地の変容、居住地の多様化、分化	中心市街地、旧集落、区画整理地区、木賃アパート地区、団地	C2, C4, D1, D4
市民まちづくり の展開	2	まちづくり的な住まいづくり	コーポラティブ住宅、マンション建て替え、リノベーション	C2, C4, D1, D4
	1	福祉のまちづくり	共生型住まい（コレクティブ住宅、グループホーム、グループリビング）、ユニバーサルデザイン	C2, C4, D1, D4
	2	景観まちづくり	まちなみ保全型まちづくり、HOPE計画	C2, C4, D1, D4
	1	環境改善まちづくり	改善型まちづくり、ground work	C2, C4, D1, D4
	1	地域活性まちづくり	中心市街地活性化、村おこし	C2, C4, D1, D4
	1	自然環境保全まちづくり	ナショナルトラスト、環境共生、	C2, C4, D1, D4
	1	復興まちづくり、防災まちづくり	まちづくり協議会、コンサルタント派遣、	C2, C4, D1, D4
	1	まちづくりの人と組織	市民NPO、専門家NPO、ネットワーク、まちづくり支援	C2, C4, D1, D4
まちづくりを支える 法制度	1	都市計画法、建築基準法集団規定、まちづくり条例	線引き、用途地域、密度規制、形態規制、建築協定、総合設計	C2, C4, D1, D4
まとめ	2			F1, F2, G

評 価 方 法：試験および出席点。C2, C4, D1, D4, F1, F2, Gについて、法定都市計画の枠を越えた市民まちづくりの取り組みの現代的意義を掴んでいるかを問う。

教 科 書 等：地域共生の都市計画（学芸出版社）  
備 考：

科 目 名：居住福祉工学

科目英文名：Technology of Living Welfare

担 当 者：上田 博之

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：3年・前期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：我が国は高齢化が進み、大きな社会問題となりつつある。このような高齢化は、居住環境を考える場合にも重要視されはじめている。本講義では、高齢社会における高齢者・障害者の居住問題と居住環境整備の課題について学習し、バリアフリー設計の考え方・技術を習得する、ことを目的としている。

講義の位置づけ：本講義は、単にバリアフリー、ユニバーサルデザインの技術を習得することのみを目的とするものではない。高齢者・障害者の居住に関する理念・考え方を重視する。従って、福祉の知識や高齢者・障害者の身体機能、助成制度など幅広い内容の習得が必要となる。建築計画学・地域施設計画論、住居計画学など計画学や住生活論、建築法規、居住地計画論などを履修しておくことが望ましい。

講義の概要：本講義では、まず福祉の概念、居住福祉工学の考え方について解説する。つづいて高齢者の身体機能を解説、理解したうえで、住居の改善について、その留意点、福祉機器・介助器具による補完について解説する。さらに住環境の整備、住宅改修助成などについて、海外事例をまじえて解説する。

講義の方法：講義内容をプリントにして配布する。講義内容は既に読んでいることを前提として講義する。講義は、プリントの解説を中心に行う。数回のレポート・演習問題を課し、レポート提出を求める。提出されたレポートに対しては、適宜コメントする。

学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度	○	○	○							◎		○	○				◎	◎			

授 業 内 容

テ ー マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
居住福祉工学の 概念 ／ 居住福祉工学 とは何か	2	居住福祉工学の概念規定と役割・必要性 福祉と建築の関係  住宅内事故と高齢者	居住福祉工学の概念規定・背景・方向性・必要性 高齢化の状況・福祉の概念・建築と福祉の関係 住宅内事故・事故の要因・バリアフリー住宅と事故	A1  A1  A3
高齢者の身体機能	2	加齢と身体機能低	加齢と筋力低下・加齢と生理機能低下・加齢と疾患	A2
福祉住環境整備	6	バリアフリーとユニバーサルデザイン  福祉制度と住環境整備  福祉住環境整備の進め方  福祉住環境整備の基本的技術  空間別整備の方法  福祉機器・補助／介助器具の活用 疾患・障害別応用技術	バリアフリーデザイン・ユニバーサルデザイン 介護保険・福祉住宅政策・福祉住環境整備の必要性和ニーズ 福祉住環境整備の主体、建築家／建築技術者の役割 住宅改修・建築構造と改修方法・モジュール・設備・介護保険制度による住宅改修・バリアフリー法 居室別改修方針・具体的方法／技術 住宅改修と各種機器との関連 疾患・障害と住宅改修	D1  F1  A1, F1  D1  D3, F2  D4 D4, F2
福祉のまちづくり	3	福祉のまちづくりとは何か  福祉のまちづくりに関する法制度  地域施設のバリアフリーと屋外空間のバリアフリー	福祉のまちづくりの必要性和方向性 福祉のまちづくり関連法の経緯と内容 地域施設／屋外公共空間の考え方	A3  A2  D4 , F1

福祉先進国の方法	2	福祉国家のまちづくり	デンマーク・スウェーデンの福祉施設・住居の状況	A3, D1
		介護保険実施国の住宅改修	オランダ・ドイツの住宅改修	A3, D1

評価方法：A1, A2, A3については、福祉の概念や建築・まちとの関連、社会政策、高齢者の身体状況などの理解度を、試験により評価する。D1, D4については、高齢者・障害者の居住環境の整備方法の技術の理解・修得度を、レポート（演習）、試験により評価する。D3, F1, F2については、高齢者・障害者の居住環境の問題の発見、問題解決方法その整備課題および整備方法の理解度についてレポート（演習）、試験により評価する。各演習問題・レポートの評価点（20%）＋定期試験の解答結果の評価点（80%）により行う。

教科書等：必要な資料（テキスト）を配布する。スライドなどを使用する。

科 目 名：建築構造学Ⅱ

科目英文名：Structural Design and Analysis Ⅱ

担 当 者：(辻 英一)・(山浦 晋弘)

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：3 年生・前期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：建築物の構造安全性の確保の重要性、現状、問題点について学ばせる。

講義の位置づけ：建築一般構造、構造力学Ⅰ、構造力学Ⅱを基礎知識とし構造デザインの位置づけと構造設計と構造設計にかかわる基本常識の概要を把握できるようにする。

講義の概要：構造設計についての材料や構造種別、荷重、力の流れと架構形式、関連法令、地震被害などを知った上で構造デザインのあり方や諸問題に言及する。

講 義 方 法：構造にかかわるキーワードや概念について講義(板書)を中心に、適宜演習を取り入れながら理解をはかる。理解しにくい点については、積極的な質問を促し、学生が完全に理解できるように努力する。

学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				○		○					◎			◎			○				

授 業 内 容

テ ー マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
構造を学ぶ前に	4	建築における構造とは	地震・津波・液状化・台風被害と構造学の必要性、建築物における構造、構造計算という概念、建築物の安全性、工学単位と物理単位(S・I単位)、圧縮力・引張力、曲げモーメント、せん断力。代表的な建材の性質、部材が変形するときの特徴(弾性・塑性、靱性破壊・脆性破壊、膨張・収縮、疲労破壊)	B1 C1 D2 E1 F1
構造と架構形式	2	構造力学と各種構造と材料	力の釣り合い、安定・不安定、反力、応力図、トラス構造、ラーメン構造、木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、ボルトと溶接、鋼材の座屈	D2 E1
構造設計と荷重	1	力の流れと荷重の種類	構造設計の流れ、外力に対する設計方針、固定荷重と積載荷重、積雪荷重、風圧力、地震力、荷重の組み合わせ	C1 D2
構造計算	4	構造計算の手順、構造各部の計算、2次設計、形状係数	コンピュータと手計算、鉄筋コンクリート部材の計算(梁、柱、床スラブ)地盤の種類と調査方法、地盤の性質、基礎、層間変形角、剛性率、偏心率、保有水平耐力、構造特性係数	D2
構造に関する法令	1	建築基準法を主とする構造規定	建築基準法、同施行令、構造規定解説書、技術的助言、各構造種別の法規定、構造計算と建築基準法、	C1 D2
耐震診断と改修	1	耐震診断の考え方、改修方法	耐震規定の変遷、耐震改修促進法、I s 指標、F 指標	D2 E1
総合耐震安全性	1	構造躯体以外の被害と防止	実際の建物被害、地震被害、揺れ、非構造材の被害、設備被害	D2 E1
まとめ	1			D2

評 価 方 法：D2とE1については、定期試験(70%)、数回の中間レポート(30%)で評価する。

教 科 書：「図解雑学構造計算」(山口昭夫監修、ナツメ社、1480円)

参 考 資 料：「構造用教材」(日本建築学会、1845円)

科 目 名：建築施工法

科目英文名：Building Methods

担 当 者：（西川 正昭）

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：3 年生・前期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：建築物を実現していく方法論としては、まず計画があり、さらに設計がある。さらにその設計内容を具体的な生産段階へ移行させるものとして建築施工がある。本講義は建築施工に関しての知識を学び建築生産の方法論を学ぶ。

講義の位置づけ：建築施工は構造・材料・法規等の専門学問の最終的な実現・応用であり、各学問の知識を総合化して、まとめていく方法論について学ぶ。

講義の概要：現場での施工法について、各工事ごとに基本知識を中心として概要を説明する。各種の工法の基本や、コスト検討について学ぶ。また、実施の工事現場での見学会等を通じて現場での実践状況を学ぶ。

講義方法：講義では、各課題毎に理論的な解説を行い、さらに現場見学などによって理解を深める。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度	○										◎						◎				

授 業 内 容

テ ー マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
建設業法・請負契約	1	建築施工の基本契約となる請負契約とその基本法である建設業法について学ぶ。	請負契約、建設業法、発注、入札	A1 D2
施工計画・地盤調査	2	建築工事における工程管理の方法とその記述方式等について学ぶ。また、地盤調査方法を学ぶ。	工事工程、工事管理、コスト管理、安全管理、平板載荷試験、標準貫入試験、土の性質	D2
仮設工事	2	仮設構造物の概要を学び、工事の種類に適合した仮設計画の方法論について考える。	仮囲い、仮設建物、足場、災害防止、揚重機械	D2
土工事・地業工事	3	土工事に必要な掘削法及び掘削後の切断面の安定法としての山留め工法、土質に適した工法の選択、及び建物荷重を地盤に伝達するための地業について、それらの工法と種類についての概要を学ぶ。	根切り、山留め、掘削機械、地下水処理、砂利地業、杭地業、既製杭、場所打杭	D2
鉄筋工事・型枠工	2	鉄筋コンクリート構造の主要構成要素である鉄筋の種類と性質及び組み立て方法、仮設構造物である型枠の構成要素と組み立て方法及び管理方法について学ぶ。	鉄筋材料、鉄筋加工、かぶり厚さ、型枠材料、型枠組立、型枠の存置期間	D2
現場見学等	1	工事中の現場見学により、建築施工について理解を深める。	仮設計画、養生、工程管理、施工計画	F1
コンクリート工事	3	コンクリートの材料、試験方法、調合計画及び耐久性を確保する方法について学ぶ。	セメント、骨材、混和剤、スランプ試験、テストピース、調合強度、水セメント比、打設、養生	D2
まとめ	1			

評価方法：期末試験の結果による。（A1）については関連法規についての理解度で評価する。（D2）については、建築施工を構成する各工事種目に関して技術的知識及びその施工行為の結果である建築物の耐久性の向上策等についての理解度を評価する。（F1）については、建築施工を効率的に進めるための方法の理解度で評価する。2／3以上出席すること。ただし、事情がある場合は申し出ること。

教科書等：必要に応じて資料を配布する。

備 考：



科目名：建築設備

科目英文名：Building Services

担当者：井川 憲男

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：3 年生・前期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：建築設備は衛生的な水、新鮮で快適な空気環境、適切な光環境を提供するために不可欠であり、建物が大規模になるほどその依存性が高くなる。また、住宅など小規模建物においても高気密化に伴って、機械換気等、適切な建築設備の設計・運用が求められている。これら建築設備に関する知識のうち、建築関連業務に欠かすことのできない基礎的なものを身につけることを目的とする。

講義の位置づけ：居住環境工学I・IIで学んだ知識（負荷、換気といった概念）をもとにして、健康で快適な居住環境を提供するためのハードウェア（装置）に焦点をあてて講義する。

講義の概要：建築設備を衛生設備、空調設備、電気設備、防災設備の4種類に分類し、それぞれについて、建物全体の中で果たす機能、およびシステム構成について概説した上で、重要な構成機器類の役割について説明する。

講義の方法：1回の講義において、前半は教科書・板書を主体とした説明を行い、その後知識の習得を確実にものとするために演習問題に取り組む。このとき随時質問を受け付ける。提出された演習問題は採点后、次の授業の冒頭で返却され、同時に簡単な説明を受ける。

学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度						◎						○						○			

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
建築設備の概要	1	建築設備の概念規定を行い、歴史的な発展過程とともにその必要性を理解する。	建築設備の必要性 建築意匠と建築設備の関連	C1
衛生設備	3	給水、排水・通気、給湯設備のそれぞれについて、役割、構成、機器に関する基礎知識を習得する。	給水、排水、給湯方式の整理 衛生を確保するための設計上の原則	C1 D3 F2
防災設備	2	火災事例を学習した上で、火災の時間的進展に伴ってどのような防災設備がどのように機能すべきかを理解する。	火災と消火・避難行動 検知・報知のための設備 消火のための設備、避難を助ける設備	C1 D3 F2
空調設備	5	空調と冷暖房の違いを理解し、冷凍の原理と空調システムの構成を学んだ後、具体的な建物モデルを想定して簡単な設計演習を行う。	空調の目的 冷凍の原理、多様な空調システム 空調設計実務のアウトライン 住宅と業務用建物の違い	C1 D3 F2
電気設備	3	電力から通信、搬送まで多様な電気設備があることを理解しつつ、照明・コンセント設備を中心に講義を行う。	照明器具、照度 配電方式、安全装置 結線の基礎	C1 D3 F2
まとめ	1			C, D, F

評価方法：各回のレポート（20％）と定期試験（80％）により評価する。主にC1、D3について自然科学の原理（水・空気の圧力や流れ、電気の基礎等）をもとに設備の働きと設備の構成・機能を理解しているか、さらにF2については、与えられた居住・建築条件下における設計手順の概要を理解しているかどうかを評価する。

教科書等：建築設備工学（井上書院）、必要に応じて配布資料を用いる。

備 考：電卓を常備。試験では、参考資料持込可。電卓（携帯電話を除く）を用いてよい。

科 目 名：住居管理・経営論

科目英文名：Housing Management

担 当 者：多治見左近・(梅本直康)

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：3 年生・前期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：住宅など建築には、企画・計画・設計、建設施工、管理などのフェーズがあり、各フェーズが適切な業務で対処されることが必要である。本講義では、このうち企画と管理に必要な知識と技術と関連分野に関して解説を行う。企画については住宅等プロジェクトの企画プロセスと関連業務、住居管理については分譲マンション管理を中心とする。

講義の位置づけ：企画は設計行為の前段階であり、管理は建設後の段階であるが、いずれも設計や施工についての知識が求められる。建物の物理的な状態とその成立経緯、使用の特徴を理解できることが必要であり、設計関連科目はもちろん、一般構造、建築施工、住生活学、住居計画学などの知識が必要である。さらに住宅・建物の企画・開発については、広く社会や文化、環境についての知識と深い理解が求められる。

講義の概要：企画や管理は対象となる住宅・建物の条件によって多様である。本講義では、企画・開発と管理、およびそれらを構成する領域について概説し、その中の簡単な事例を用いて具体的に説明する。また企画や積算については簡単な演習やレポートを課して理解を確かめる。分譲共同住宅（マンション）管理の特徴と管理技術については、見学も含めて詳しく解説し、関連する法律や制度に関する知識を教授する。

講義方法：講義は各種資料を示しながら行い、確認のために数回のレポートや小テストを講義中に課す。さらに管理実務を理解するために見学会を予定している。見学会は講義2回分（半日）で、事前に日程・場所を指示する。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度	○		○						○			○	◎				◎				

授業内容

テーマ	回数	概 要	構 成 要 素	学 習 ・ 教育目標
住宅経営・建築企画	3	建築企画の意義を説明し、住宅・建築の供給・開発や施設建設の背景や検討事項、および事例について概説し、簡単な企画演習を行う。	建築企画、立地条件、採算計画、居住者・利用者の要求・意識、社会・経済動向、規制、計画条件、計画条件に影響する情報・統計	A3, C4, D3, F1
建築コストと資金調達	2	維持段階も含む建築コストの構成要素と積算方法について概説するとともに、資金調達方法の概要を述べ、事例をあげて収支計画を説明する。	LCC、建築積算、事業手法・開発手法、家賃、公租公課、収支計画、地価の特性、不動産評価	C1, D4, F1
不動産の法律	2	住居管理技術の裏付けとなる法律知識や技術について解説する	所有権、利用権、所有・利用の諸形態、契約（賃貸契約等）、登記、土地利用、敷地形態	A1, C4
住居管理の概念と目的	2	住居管理に関する諸説を紹介して、その意義、目的を説明するとともに、住居管理の内容及び、分譲共同住宅管理の特徴を説明する。	Housing Management、管理の定義、所有形態と管理、住宅形式と管理、空間構成と管理、建物管理・生活管理・経営管理・運営管理、オクタビアヒル、マンション・共同住宅の歴史、建物管理トラブル、生活管理トラブル、管理トラブルの原因（共同住宅形式）	C4, D4, F1
分譲共同住宅の特色と管理の実務技術	2	集合住宅の維持管理：都市型集合住宅の代表的居住形態である分譲の集合住宅を取り上げ、管理主体である管理組合の役割とそれをサポートする専門家の役割を講義する。 集合住宅の構造体・仕上げ・設備：維持管理の対象である建築物を構成する構造体、仕上げ、設備の概要とその特	建物の構成（躯体、仕上げ、設備）、管理形態修繕・改善の対象と方法、LCC、コスト、建て替え手法、リフォーム手法、日常管理、運営管理の方法、管理費、修繕積立金	D4, D3, F1

		徴を講義する。一般建築構造の復習も兼ねる。		
分譲共同住宅の修繕実務	2	大規模修繕工事の実際：現場見学と講義－２時限分の集中講義 長期修繕計画とは：集合住宅の物的管理の要となる長期修繕計画の考え方とその基礎となる材料の劣化、耐用年数について講義する。さらに、LCC（ライフサイクルコスト）の観点から建物の寿命を考える。	管理組合、コンサルタント、関係主体、大規模修繕、長期修繕計画、修繕・改善の対象と方法、LCC、コスト、建て替え手法、リフォーム手法、日常管理、運営管理の方法、管理費、修繕積立金	D4, D3, F1
区分所有法・マンション管理関連制度	2	分譲共同住宅管理の基本的法制度である区分所有法について解説する。	区分所有法（経緯・特徴）、専有（専用）部分・共用（共有）部分、持分、議決権（持分）、区分所有者、占有者、敷地利用権、管理組合（法人）、管理者、規約、集会、建て替え、団地関連法：マンション管理適正化法・建て替え円滑化法	A1, A4, C4, D4, F1

評価方法：講義中の小テスト（１回を予定）とレポート（２つを予定）によって主に（D4）と（F1）を評価する。一つでも欠けると不合格になる可能性が高い。（D4）については居住生活における住居管理に関連する諸制度、積算等の建築コストやマンション管理実務技術、修繕実務の理解を評価する。（F1）については建築企画の理解と構想力、不動産に関する諸制度の意義と機能についての理解を評価する。

小テストやレポートは講義中に実施する。必ず提出すること。なお、出席日数が 2/3 に満たない場合は成績評価ができない。

教科書等：必要な資料を配付する。またプロジェクターなどを用いる。参考書・自習書としては  
新建築学大系 22－建築企画、彰国社  
基準にもとづく建築積算入門、赤堀弘、彰国社 など多数  
住居管理については  
新世紀のマンション居住、梶浦恒男、彰国社  
入門マンション管理、斎藤広子、大成出版社  
マンションにいつまで住めるのか、藤木良明、平凡社新書 など多数。

備考：現地見学の日程は講義中に知らせる。土曜日になることもあるので、日程をあけておくこと。

科 目 名：住宅性能評価法

科目英文名：Housing performance evaluation method

担 当 者：土井 正・上田 博之・（延原 理恵）

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：3 回生・前期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：良質な住宅の取得を目的に住宅の品質確保の促進等に関する法律が制定されている。これに基づいて新築住宅の基本構造部分の瑕疵担保期間10年の義務化、様々な住宅の性能をわかりやすく表示する住宅性能表示制度、住宅紛争の迅速な解決のための指定住宅紛争処理機関の整備、さらに、既存住宅を対象とする住宅性能表示制度が制定されている。ここでは、住宅性能表示制度の仕組み、性能表示事項、性能表示基準などの学習理解を通して、安全で快適な住宅が備えるべき性能とその評価の仕組みについて学ぶ。

講義の位置づけ：構造・設備に関する評価と技術、安全、福祉機器と高齢者対応といった社会的要請にこたえる住宅やシステム構築技術の習得をめざして関連講義により得られた知識の総合化をはかる。

講義の概要：はじめに住宅性能表示制度の成り立ちについて学ぶ。次いで、新築住宅の性能表示基準10分野について評価方法、評価基準について学ぶ。その後、既存住宅の性能表示事項および検査方法などを学ぶ。また、長期優良住宅の普及の促進に関する法律との関係についても学び、最後に構造安全性の評価に関連して耐震診断方法について学習する。

講義の方法：各時間の前半部分で学習意図を解説し、ついで、各評価項目に関連した評価方法基準、表示基準を解説し、必要に応じて演習を行い、学習意図の確認を行う。

学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度			○	○		◎		○	○		○	○		○			○	○			

授 業 内 容

テ ー マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
本科目の概要	1	授業の進め方、授業の意図、技術習得の重要性、住宅性能の評価とその基準の解説。	品確法、住宅性能表示制度、建築基準法、長期優良住宅制度、高齢者配慮、安全性、快適性	A3, C1, D2
構造の安定	3	構造の安全性とその実現手法、評価方法について学ぶ	許容応力度計算、壁量計算、準耐力壁量、偏心、接合部強度、耐震診断法	C1, D2, E1
火災時の安全	1	住宅の火災安全性とその実現手法、住宅内事故の発生メカニズムとその防止方法を学ぶ。	火災安全性、防火性能、火災報知器、避難経路、転落、つまずき、火傷、溺死、バリアフリー	B1, C1, C4
劣化の軽減	1	比較的耐用年数の長い構造躯体の劣化の軽減手法について、劣化のメカニズムとともに学ぶ。	生物劣化、耐久性、防錆対策、耐用年数	C1, D2
維持管理への配慮	1	比較的耐用年数の短い給排水管やガス管の維持管理について学ぶ	給排水管、給湯管、ガス管、専用配管、共用配管、点検口、人通口	C1, C3
居住環境の性能	2	快適な居住環境の形成に必要な温熱環境、空気環境、光・視環境および音環境の評価手法について学ぶ。	省エネルギー対策、ホルムアルデヒド対策、換気対策、開口率・比、床衝撃音対策、透過損失	C1, D3
高齢者等への配慮	1	専用部分、共用部分別に高齢者等への配慮対策について学ぶ。	専用部分、共用部分別移動時の安全性、介助の容易性、ユニバーサルデザイン	A3, C1, C4
防犯性能	1	環境設計による犯罪予防の考え方を解説し、住宅の防犯性の向上のための仕組みについて学ぶ。	監視性の確保、領域性の強化、接近の制御、被害対象の強化、侵入防止対策	A3, C1, C4
既存住宅の性能評価	2	既存住宅の性能表示制度の解説を行い、現況調査方法、検査部位について学習する。	現況検査方法、検査対象部位、判定基準、特定現況検査	A3, C1, D2

耐震診断方法	2	木造住宅の耐震診断と補強方法について学習する。	一般診断法，保有耐力診断法，限界耐力計算による診断法，補強計画，補強方法	C1, D2, E1, F1, F2
--------	---	-------------------------	--------------------------------------	--------------------

評価方法：成績評価はレポートを課し、各項目の内容の60%以上を理解していることを合格点とする。  
A3, B1, C1, C3, C4, D2及びD3について構造、設備、安全についての基礎知識とその評価能力や  
構造物や設備等に必要な構造、強度、性能、材料を想定できるかその理解度を問う。レポ  
ートの表現を通じてE1, F1, F2についてその理解とプレゼンテーション能力を評価する。

教科書等：必要に応じてプリント資料を配布する。時事的価値のある新聞記事の配布や、実例を把握  
するためビデオ視聴を行うこともある。

備考：

科 目 名：生活機器学

科目英文名：Design Theory of Home Appliance

担 当 者：岡田 明

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：3 年生・前期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：科学技術の発達や生活環境の変化に伴い生活機器は進化し、それらと人間との関係も変容しつつある。講義ではそうした生活機器の性能や使い勝手とその評価方法、さらには構造や適切な使用法などについて学び、正しい機器の選択や設置を理解することを目的とする。

講義の位置づけ：生活科学、設計論、機構学、人間工学、デザインを基礎に解説することにより、居住環境を構成する住宅設備、家具、家電機器、生活用品等の生活機器について、生活科学的見地よりそのあり方を論じる。なお、この科目は教職（高校家庭科一種免許）の必修にもなっている

講義の概要：全体は3部構成になっている。第1部は生活機器のデザインプロセスや評価方法、第2部は生活機器の構造と機能、そして第3部は生活機器をめぐる課題と演習である。

講義の方法：毎回ひとつのテーマを取り上げて講義を行う。ビジュアルな教材も多用し解説していく。また、グループによる簡単な演習課題も含める。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度		◎		○		○						◎			○			○		○	

授 業 内 容

テ ー マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
企画・デザインの 方法と評価	4	生活機器のデザイン事例、企画・立案から設計までのプロセス、性能・使い勝手評価の方法などについての理論と具体的事例を紹介し、生活機器が備えるべき必要条件を学ぶ。	生活機器の種類、製品の4要素、デザインプロセス、 行動・意識調査方法、 使い勝手評価方法	D3・B1
生活機器の構造 と機能	5	衣生活機器、食生活機器、住生活機器、情報機器。これら4つの部門におけるそれぞれ代表的な機器について、その構造と機能を説明する。	洗濯機、ミシン、冷凍・冷蔵庫、電子レンジ、電磁調理器、エアコン、 蛍光灯、パソコン、携帯電話、テレビ	B1・D3
生活機器をめぐる 課題	5	生活機器のあり方や課題を生活文化や人間工学などの視点から論じる。また一部グループによる演習を行う。	安全・安心設計、生活機器のユニバーサルデザイン、道具による文化形成、 機器の選択と空間内での構成方法	A2・B1 C1・E2・ F2・G2
まとめ	1			

評価方法：各学習・教育目標の理解度と考え方により評価を行う。そのため以下の方法と配分を用いる。  
定期試験（50%；主としてB1, C1, D3），毎時間の小レポートと演習課題レポート（50%；主としてA2, E2, F2, G2）

教科書等：毎回教材プリントを配布。副読本を紹介  
備 考：教職（高校家庭科一種免許）の必修科目

科 目 名：生活統計学

科目英文名：Statistics for Human Life

担 当 者：岡田 明

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：3年生・前期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：統計学は数学ではない。ものごとの状態や現象を正しく捉え理解するための有効な道具である。人を説得する強力な武器にもなる。講義では居住環境学科で学ぶ設計や技術に必要な統計学の初歩を習得し、様々な事例に応用できる実践力を養う。

講義の位置づけ：居住環境学科が提供する数理科目のひとつである。調査データや実験データの解析など卒業研究で必要となることの多い統計処理を学ぶため、履修しておくことが望ましい。

講義の概要：居住環境学で必要となる統計学を「代表値を捉える」「関係を捉える」「違いを捉える」の3つのテーマに分け、それぞれに用いられる手法を具体的事例に基づき解説する。

講義の方法：パソコンの表計算ソフトを用いた演習を交えながら授業を進めていく。また各種統計処理の教材となるデータを得るための簡単な調査や実験も加えながら、実体験を重視した学習を行う。毎回終了時に授業に対するコメントや疑問点等を提出してもらい、次の時間に回答する。

学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				◎	◎				○												

授 業 内 容

テ ー マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
統計学への招待	1	統計学の目的や必要性について、日常の具体的事例を通じて解説する。	統計学とは、統計学はなぜ必要か、統計学のための基礎知識	C4
表計算ソフトの使い方	2	授業で必要となるデータ処理や計算を行うための表計算ソフトの使い方を学習する。	データ入力、表の作成、グラフの描き方、計算方法	B2
テーマ1： 代表値を捉える	2	平均値や標準偏差など、ものごとの特性を表す様々な尺度について解説する。	度数分布、正規分布、平均値、標準偏差、パーセンタイル値、確率	B1
テーマ2： 関係を捉える	3	たとえば睡眠時間と学業成績との間の相関の有無など、異なる事象の間の関連性を見出す手法を中心に解説する。	回帰分析、回帰式、相関係数、重回帰分析、多変量解析の種類と用途	B1
テーマ3： 違いを捉える	4	デザインの好みに男女差があるかといった両者の差の有無などを事例に、検定の手法を解説する。	分散分析、t検定、実験計画法	B1
小テストと解説	3	上記各テーマの最後に小テストを実施し、結果を解説することにより理解できなかった箇所を補強する。		

評 価 方 法：各学習・教育目標の理解度と考え方により評価を行う。そのため以下の方法と配分を用いる。  
小テスト（60%；主としてB1），毎時間の小レポート（40%；主としてB2, C4）

教 科 書 等：毎回教材プリントを配布。その他、副読本を授業中に紹介。

備 考：

科目名：デザインワークショップ

科目英文名：Design Workshop

担当者：竹原 義二・小池志保子・（木村 吉成）・（松本 尚子）

種 別：演習 単位数：演2 時間数：☆ 学年・学期：3 回生・前期集中

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：素材に触れること、実物を制作することを通して、素材の特性や物の成り立ちについて実践的に学習することと、与えられた条件の中で、グループ制作を通じてデザインを具現化することを目的とする。原寸を制作するための課題や問題点を明らかにし、実現するための企画力や実行力を養う。グループ制作を通して、コミュニケーション力やプレゼンテーション力の習得を目指す。

講義の位置づけ：この授業は、建築設計や建築におけるものづくりに取り組む上で必要な基礎的技術や形を具現化するための能力・技術を習得するためのものである。

講義の概要：演習を重ねることで自分の考えをスケッチや言葉、図面で表現し、他者に伝え、考えを具現化していく。

講義方法：グループで課題に取り組み、プレゼンテーションを行うことをくり返ししながら、実作を制作する。

#### 学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度			○					○	○			○		◎			◎			○	○

#### 授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
ガイダンス	1	ものづくりについて、素材についてのガイダンス。	スケジュール、事例紹介。	A3
見学	2	事例や環境について	フィールドワーク。クライアントの要望の整理。環境調査。	D3, C
エスキス	3	グループに分かれて、デザイン案を制作する。	ワークショップ形式。実現可能かどうかの検討。与条件の整理。	D3, G
制作	2	デザイン案の具現化	デザイン案に基づいて、実作制作のための図面を制作する。	E1, F 1
実作の制作	3	実物を制作する	図面を具現化する。素材の特性を学ぶ。道具の使用方法を学ぶ。制作手順について学ぶ。安全への配慮を行う。	E1, F 1
講評会	2	プレゼンテーション	グループで制作したデザインをプレゼンテーションする。	E1, F 1, G

評価方法：Eについてはデザインの表現方法の理解度を、授業中のレポート、図面の提出によって評価する。Fについてはものの成り立ちの理解度を授業中のレポート、スケッチおよび創造したものの提出によって評価する。

教科書等：特になし。授業中に資料を配布。

備考：本演習は実習を行うので、大学側から支給される材料以外は各自の自己負担となる。



科 目 名：測量学

科目英文名：Surveying

担 当 者：（小笠原修二）

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：3 回生・前期集中

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：建物設計や都市計画及び建設現場を進めていくうえで、なくてはならない測量実務に必要な技術及び基礎知識を学習する。

講義の位置づけ：建築設計者および施工者などの建築技術者にとって学ぶべき基礎的な知識となる。

講義の概要：測量技術の基礎的な内容である距離測量、平板測量、水準測量、そしてトラバース測量などを学習しながら、基本的な測量器械の使い方を学習する。

講義の方法：測量学の基本事項を解説する。また、レベルやトランシットなどの使用方法も含めて、測量の実習を行う。

学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度				○									◎								

授 業 内 容

テ ー マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
測量の概要	1	測量とはどのようなものか、建築との関連性、また測量に必要な数学の知識などを学ぶ	関数電卓の使い方	B1 D4
基本測量-距離測量-	1	距離測量における使用器械から誤差及び精度について学ぶ	距離測量における最確値の求め方。測量実習	D4
基本測量-トラバース測量	5	水平角観測、鉛直角観測の方法、野帳の記入方法、最確値の求め方、敷地図作製方法などを学ぶ	トランシットの据付け方、使用方法、トラバース計算。	D4
基本測量-平板測量-	4	平板測量（道線法、放射法）の方法、誤差調整の方法、敷地図作製方法を学ぶ	平板測量器具（アリダード）の使用 方法。	D4
基本測量-水準測量-	4	水準測量（昇降式、器高式）について学ぶ	レベルの据付け方、水準測量の方法。	D4

評価方法：Dについては、レポートで評価し、理解度で評価する。

教科書等：特になし。資料配布

備 考：関数電卓及び三角定規、三角スケールを常備

科 目 名：技術者倫理

科目英文名：Ethics of Engineers

担 当 者：全教員

種 別：講義 単位数：2 時間数：☆ 学年・学期：3 年生・後期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：技術者は高度な知識・技術を適切に使う社会的責務を負う。本講義は、建築・まちづくり、プロダクトデザインの技術者として心得えるべき技術倫理・法規等について理解を深め、技術者として遵守すべき法令、社会的責任・倫理感覚について学ぶことを目的とする。

講義の位置づけ：設計、計画、構造・環境等を一通り学習した3年生後期に、将来の都市・住宅・ものづくりの担い手として欠くことのできない中核科目である「技術者倫理」について学ぶ。

講義の概要：都市・地域、環境（エコ）、社会・経済、デザイン、防災・安全という5つのテーマごとに、技術者倫理に関する多様な視点を学ぶ。

講義の方法：スライド、文献等を用いて、技術者として遵守すべき法令、社会的責任・倫理感覚について学ぶ。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度			◎										○								

授 業 内 容

テ ー マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
技術者倫理を学ぶ意義	1	授業の位置付け、進め方、技術者倫理の意義・重要性を説明する。	技術者倫理、授業の構成・意義、関連する法令とその概要	A3, D4
都市・地域と技術者倫理	2	まちづくり、開発、歴史的建造物の保存・再生事例における多様な価値観とその調整方法、事例、技術者の役割について説明する。	保存修景、歴史的建造物、生活環境・歴史文化環境・自然環境に及ぼす影響、サステイナブル、リノベーション、コンバージョン	A3, D4
環境と技術者倫理	3	高気密化と換気計画という2つの背反しあう問題の接点の見だし方、材料の客観的な性能指標の設定法について説明する。	換気、高断熱・高気密、化学物質、シックハウス、省資源、省エネ、規格	A3, D4
社会・経済と技術者倫理	3	建築技術者と男女雇用機会均等法、住宅販売・賃貸借契約におけるトラブル事例とその解決、住宅ローンにおけるトラブルと消費者保護について説明する。	男女雇用機会均等法、賃貸借契約、宅地建物取引業法、住宅ローン	A3, D4
デザインと技術者倫理	3	設計における社会性・公益性への配慮、環境評価・人間工学分野の実験における倫理、インフォームドコンセントについて説明する。	建築家の職能、技術者倫理規定、現場監理における責任、インフォームドコンセント、研究における倫理規定、個人情報保護法	A3, D4
防災・安全と技術者倫理	3	生活空間の防災安全の観点から、建築技術者およびその組織の生活者に対する役割や対応のあり方について解説する。	防災、安全、公衆、震災、構造設計、リスクマネジメント、保険、設計者、瑕疵	A3, D4

評価方法：A3, D4について、レポート課題（20%×5テーマ）により評価する。

教科書等：必要に応じてプリントを配付する。

備考：レポートの課題説明、提出方法は、授業ごとに説明する。

科 目 名：プロダクトデザイン演習

科目英文名：Practice of Product Design

担 当 者：岡田 明・西岡 基夫・（稲上 義之）

種 別：演習 単位数：（選択必修）1 時間数：☆ 学年・学期：3 回生・後期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：我々はデザインされた住宅などの居住空間だけで暮らせるわけではない。そこに住宅設備、家具、生活機器をはじめとするプロダクト製品も加わり初めてハード面での生活の基礎が形作られる。この演習では、こうしたプロダクト製品のデザインについて、その理論から実践までを演習形式で学ぶ。

講義の位置づけ：設計製図Ⅰ～Ⅴの対象とは異なるプロダクト製品の設計を扱う。また、3 回生前後に提供される「生活機器学」の演習編としての性格も有しているため、「生活機器学」も受講しておくことが望ましい。

講義の概要：プロダクトデザインの理論を学んだ後、特定のプロダクト製品を対象とした企画から設計までのデザイン作業のプロセスを体験する。また、関連施設見学等の学外演習も行う。

講義の方法：グループによる課題の取り組みやプレゼンテーションも交えながら、実践的な演習を遂行する。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度		○			○	○		○			◎	◎				○		◎		○	

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
イントロダクション	1	プロダクトデザイン事例	家具・什器、住宅設備、家電製品、情報機器、生活用品	A2
プロダクトデザイン論	2	製品の企画・立案から設計までのプロセスを解説し、プロダクト製品が備えるべき必要条件を学ぶ。	デザインプロセス、工業デザイン、デザイン手法、デザイン評価	A2, F2
企画から設計まで	9	具体的な製品を対象として、その企画から設計までを実践する。	工業製図、レンダリング、アイディアスケッチ、ラフモックアップ	B2, C1, C3, D2, D3
学外演習	2			A2
講評会	1			G2

評価方法：各学習・教育目標の理解度と考え方により評価を行う。そのため以下の方法と配分を用いる。  
課題作品およびレポート（70%；主としてB2, C1, C3, D2, D3, G2），毎時間の小レポート（30%；主としてA2, F2）

教科書等：必要に応じて教材プリント等を配布。副読本を紹介  
備 考：履修制限有。

科目名：まちづくり演習

科目英文名：Community Design Matidukuri

担当者：藤田 忍・（北野 幹夫）

種 別：演習 単位数：（選択必修）1 時間数：☆ 学年・学期：3 回生・後期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：建築単体の設計に対して、空間的にも時間的にも広がりのあるいわば建築企画の技術、および自然的条件や歴史的条件も踏まえ、かつコミュニティの活性化や合意形成といった人的、社会的側面も含んだ総合的な能力をもつ専門家を教育する。

講義の位置づけ：設計製図の演習の集大成として、一敷地を越えた地区レベルでの計画技術を獲得することを目標とする課題である。また、2 回生後期の都市計画、3 回生前期の居住地計画論の応用、発展の演習と位置づけられる。

講義の概要：実際の地区を対象に、現況調査、問題の分析、基本構想、基本計画、施設計画を行い、空間技術的側面、社会的経済的側面、歴史的文化的側面などを包含した総合的な提案技術を身に付ける。

講義の方法：ワークショップ形式でのグループ作業、グループ討論を基本とし、プレゼンテーションと合意形成の技術を身に付ける。タウンウォッチングおよび住民へのインタビューなど可能なかぎり実体験を重視する。また法制度、地域の社会的経済的条件などを咀嚼し説得力のある問題解決能力の涵養を目指す。

学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度			○				○		○	○			○		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
1. 課題説明	1	課題の説明、	対象地区の概況、進め方、提出作品・プレゼンテーションの説明	A3, C2, C4, D1, D4
2. 現地見学会	2	タウンウォッチング&発表会（現地の市民も巻き込んで）	地区の問題、資源、物的・人的・社会的側面	E2, E3, F1, F2, G
3. 基本構想作成作業	4	地区の現況調査、インタビュー、問題の分析、基本構想の提案	空間計画、経済的な課題、社会的側面（コミュニティ）	A3, C2, C4, D1, D4
4. 中間合評会：基本構想	2	同上プレゼンテーション（現地の市民も巻き込んで）	同上	E2, E3, F1, F2, G
5. 基本計画作成作業	4	基本構想の実現手段の検討、地区計画の作成	地区計画、ルール、コミュニティビジネス	A3, C2, C4, D1, D4
6. 最終合評会：基本計画	2	同上プレゼンテーション（現地の市民も巻き込んで）	同上	E2, E3, F1, F2, G

評価方法：出席点及び計2回の作品の提出、プレゼンテーションの評価によって行う。E2, E3については作品の完成度により、F1, F2についてはテーマの設定、進め方により、Gについてはグループ作業への貢献とプレゼンテーションにおける発表と質疑討論により評価を行う。また発表に際しては旗揚げアンケート等を行い、評価を受講生（参加市民も含む）全体のものとする。

備考：保存修景演習との同時履修を推奨する。履修制限有。

科目名：環境システム設計及び実験

科目英文名：Environmental System Design and Experiments

担当者：永村 一雄・井川 憲男

種 別：実験 単位数：（選択必修）実2 時間数：☆☆☆ 学年・学期：3回生・後期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：建築設備の進歩でどのような建物でも室内を快適で健全な状態にコントロールすることはほぼ可能であるが、地球環境問題の観点からは建物で消費するエネルギーを最小限に抑えることが望まれる。建築デザインと建物熱負荷は密接に関係しており、快適性と省エネルギー性を両立させるにはシステムとして建物を考える必要がある。一方、実際に建てられた建物が設計通りの室内環境を満たしているかどうかは実験で確かめる必要がある。本講では環境を考慮した建物と設備のシステム設計について学ぶとともに、室内環境計測に関わる機器の知識、操作法、収集されたデータのまとめ方を修得する。

講義の位置づけ：居住環境工学I、IIと建築設備の知識を活用し、建物デザインと設備システムを総合して考える。さらに実際の室内環境を実測することで、建築と環境との関わりについての理解を深める。

講義の概要：建物の環境設計と設備システム設計を行う。また物理的環境要素の基本的な物理量の計測および、解析方法を学ぶ。

講義の方法：建物の環境設計および設備システムの計画をエスキースを主として進める。実験に関しては計測機器の使用方法について説明を受けたのち、自ら実験計画をたてる。測定結果を解析したのち、レポートを提出する。

学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度						○						○						◎		◎	

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
課題説明	1	課題の説明	環境設計，設備システム，室内環境の測定	C1
建物ファサードデザイン	10	建物のファサードデザインと熱負荷・エネルギー消費の関係をレポートにまとめる。	建物のファサードデザイン，空調熱負荷	C1, F2
光環境測定	8	教室等の室内照度測定を行なう。昼光率を算出し，環境改善策を考察し，レポートにまとめる。	照度と照度計 人工照明と昼光	D3, G2
熱環境測定	8	気温，湿度，等価気温，風速を測定，記録し，主観評価と関連づけて熱環境に関する考察を行ない，レポートにまとめる。	温熱感と関連物理量	D3, G2
空調システム設計	10	建物の空調システムの設計	空調方式，熱源方式	C1, F2
空気環境測定	8	トレーサガスを用いた換気量測定について復習し，トレーサガスの放散，濃度測定を行ない，換気量を算出し，レポートにまとめる。	換気量と室内ガス濃度	D3, G2

評価方法：C1, F2についてはエスキースを通じて設計およびシステム構成のコンセプトを評価する。D3, G2については提出されたレポートにより，客観的なデータの記述と考察がなされているかを評価する。G2については実験に参加し，作業を分担実施することが成績評価の前提である。

教科書等：建築家のための建築環境デザイン（オーム社），日本建築学会編「建築環境工学実験用教材I 環境測定演習編」

備考：「基礎生活情報学実習」「応用生活情報学実習」を履修していることを前提とする。履修制限有。

科 目 名：建築計画基礎演習

科目英文名：Basic Practice for Architectural Planning

担 当 者：森 一彦

種 別：演習 単位数：（選択必修）実1 時間数：☆☆ 学年・学期：3 年生・後期

当学科学生以外の受講：可

講義の意義・目的：建築計画の基礎的演習として、寸法計画、家具配置計画、居室空間計画、経路計画、建築空間計画、地域空間計画に関わる規準を学ぶとともに、人間環境系の視点からの空間実験を通して、その根拠や意味を理解する。

講義の位置づけ：建築計画基礎演習は寸法計画、家具配置計画、居室空間計画、経路計画、建築空間計画、地域空間計画に関わる規準を学ぶと共に、ヒューマンスケール、パーソナルスペース、アフォーダンス、行動セッティング、オリエンテーション、環境イメージなど、人間環境系に関わる基礎的概念を理解する。さらに、基礎的概念を障害者や高齢者・子供などの能力や特性に配慮した福祉環境デザインにつなげることを学ぶ。

講義の概要：演習では教科書に沿った解説に加え、簡単な実験・演習を行い、建築計画に関わる基礎的概念を体験的に学ぶ。

講義の方法：講義は演習を中心とする説明と実験・演習の結果発表・講評を相互に関係させて進める

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度								◎				○			○		◎			○	

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
建築計画の基礎的視点	2	寸法、家具配置、居室空間、経路、建築空間、地域空間の計画に関わる基礎的な視点や基準を概説する。		C3, D3, E2, F1, G2
寸法計画	2	「寸法とヒューマンスケール」の関わりについて理解する	ヒューマンスケール、アフォーダンス、パーソナルスペース 課題：知覚距離測定	C3, D3, E2, F1, G2
家具配置計画	2	「家具配置と行動セッティング」の関わりについて理解する	場所、場面、セッティング、ソシオフォーガル、ソシオペタル 課題：場所観察	C3, D3, E2, F1, G2
居室空間計画	2	「居室空間とコグニション」の関わりについて理解する	知覚、錯視、認知、誤認、空間量 実験：Amesの部屋、誤認のデザイン	C3, D3, E2, F1, G2
経路計画	2	「経路とウェイファインディング」の関わりについて理解する	経路探索、シークエンス、見通し、オリエンテーションルートマップ、 課題：探索行動実験	C3, D3, E2, F1, G2
建築空間計画	2	「建築空間と認知マップ」の関わりについて理解する	空間定位、サーベイマップ、テリトリ、ヒエラルキー 課題：空間のわかりやすさ評価	C3, D3, E2, F1, G2
地域空間計画	2	「地域空間と環境イメージ」の関わりについて理解する	環境イメージ、環境適応、環境移行、原風景 課題：子供の時の環境イメージ	C3, D3, E2, F1, G2
まとめ	1	演習で学んだキーワードの理解程度確認		C3, D3, E2, F1, G2

評価方法：試験、レポート、出席状況により総合的に評価する

教科書等：数理工学社「建築計画の基礎」西出和彦、彰国社「建築人間工学事典」建築学会編

備考：履修制限有。

科 目 名：地域福祉施設計画演習

科目英文名：Workshops on Facility Planning and Design for the Elderly and Disabled People

担 当 者：三浦 研

種 別：演習 単位数：（選択必修）1 時間数：☆ 学年・学期：3回生・後期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：施設見学・講義・演習を通じて住空間が人の心理や行動に大きく影響することを学び、模型作成から「住まい」としてのヒューマンな「施設」を計画・デザインする能力をトレーニングする。

講義の位置づけ：3回生前期までの設計製図を受け、超高齢社会において必要となる、地域に根ざした高齢・障害者のための施設や空間を計画する際に求められる視点や留意点を学び、空間計画に取り組む。

講義の概要：高齢者施設の歴史、計画論に関する講義にくわえ、施設見学を含む学外演習を取り入れる。また、模型の作成などを通して、ヒューマンインターフェースとしての福祉施設の空間計画について理解を深める。

講義の方法：講義、施設見学、行動実験演習、模型の作成演習

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度		○						○				◎					◎				○

授 業 内 容

テ ー マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
ガイダンス	1	演習の意義と目的の説明	学習プログラム、スケジュール	A2
施設の現場見学	3	従来型の施設と近年、新しい考えに基づき計画された施設を見学し、その違いを理解する	多床室、個室、段階的領域形成、個人的領域、プライベート、セミプライベート、セミパブリック、スケッチ	C3, D3
高齢者施設の変遷	1	見学した高齢者施設の変遷を講義で映像なども使い学ぶ	高齢者施設の変遷、グループホーム、ユニットケア	C3, D3
認知症のケアと空間計画	1	認知症の症状とそれに対応する空間計画について、映像なども使い学ぶ	なじみ、認知症、アフォーダンスと空間、記憶と行動、小規模多機能サービス、民家改修	C3, D3
感覚と行動／姿勢と行動	1	感覚と空間の関係、姿勢と行動について演習する	感覚、姿勢、行動、アフォーダンス	C3, D3, F1
模型作成のための施設見学	2	模型で作成する施設を実際に訪問する	現地見学、インタビュー、行動観察	D3, F1
ヒューマンスケールの空間デザイン	4	同規模の二つのデイルームの模型作成を通して、ヒューマンな空間を形成する要素を理解する	空間構成、視覚的つながり、しつらえ、セッティング、素材、姿勢	D3, F1, G1
発表会	1	作成した模型の発表	ヒューマンスケールのデザイン	F1, G1

評 価 方 法：それぞれの課題のレポート、模型作成とその口頭発表により、人への影響D3、計画能力F1、共同作業G3を評価する。A2・C3については関連する課題の中で総合的に評価する。

教 科 書 等：必要に応じて資料を配付する。また参考資料を指示する。

備 考：見学先との調整があるので、スケジュールなど、掲示板をよく確認すること。履修制限有。

科 目 名：保存修景演習

科目英文名：Exercise in Preservation and Rehabilitation

担 当 者：谷 直樹・（松本 正己）

種 別：演習 単位数：（選択必修）1 時間数：☆ 学年・学期：3回生・後期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：歴史的建造物・町並みの再生・活用は、サステナブル社会の構築、環境保全の観点から、今後ますます必要とされることは必至である。本課題では、その基礎的調査の方法を学ぶとともに、それらを再生・活用するための技術を習得する。

講義の位置づけ：再生・活用に必要とされる能力は、建築計画、都市計画、構造、材料学といった建築関連分野のみならず、歴史学、社会学、文化学など幅広い分野に及ぶ。本課題は、こうした建築と文化、地域社会を結ぶ内容として重要である。

講義の概要：関西に現存する歴史的町並みあるいは歴史的・伝統的建造物を取りあげ、歴史的変遷や意義を講義し、現地調査を行った上で、その再生・活用の設計を行う。

講義の方法：まず、とりあげる町並みあるいは建物について講義し、さらに個人で文献的調査を行う。次に現地調査で、実測、ヒアリングを行い、現状と将来的見通しについて分析・把握する。最終的に実測調査を図面化し、その再生案、活用案を設計図面、模型などで提示する。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度	○	○	○				○	○	○	○		○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
歴史的建造物の保存と活用について	2	建物の再生・活用について、歴史と現状を説明し、日本及び世界の動向について解説する。	再生・活用，サステナブル，リノベーション，コンバージョン，寿命，歴史的環境，歴史的建造物	A1・A2・A3・C2・C3・C4
現地調査①	6	町並み保存地区、登録文化財、HOPE計画地区などを実際に見学し、地元でのヒアリングを実施する。	見学会，ヒアリング調査	A1・A2・A3・C2・C3・C4・D1・D3・D4・F1・F2
現地調査①のまとめと発表	2	現地調査①の印象をまとめて、講評会で発表する。	プレゼンテーション，講評	D1・D3・D4・E1・E2・E3・G1・G2・G3
現地調査②とその講評	2	演習の地区を設置し、現地で再生・活用ニーズのヒアリング調査を行う。	ヒアリング調査，プレゼンテーション，講評，ニーズの分析	F1・F2・G1・G2・G3
個別指導	2	中間発表をもとに個別に課題を設定し、追加調査を行う。	追加調査	G1・G2・G3
最終講評会	1	全員の前でプレゼンテーションと講評を行う。	プレゼンテーション，講評	G1・G2・G3

評価方法：最終提出作品とプレゼンテーションの内容によって主に評価するが、Eについては作品の完成度により、Fについてはテーマの設定、進め方により、Gについてはグループ作業への貢献とプレゼンテーションにおける発表と質疑討論により評価を行う。調査と講評会への出席は単位取得の要件とする。

教科書等：配布資料

備考：まちづくり演習との同時履修を推奨する。履修制限有。



科 目 名：演習I

科目英文名：Seminar on Graduation Study I

担 当 者：全教員

種 別：演習 単位数：演1 時間数：☆ 学年・学期：3回生・後期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：それぞれの学生の所属研究室においてゼミ形式により、居住環境学の専門領域について学び、卒業論文又は制作のテーマ決定および基礎的検討など基盤づくりを行う。

講義の位置づけ：この演習での成果は演習IIに受け継がれ、最終的には卒業論文又は制作へとつながる。

講義の概要：居住環境学における専門領域の研究課題や実践方法について演習形式で学ぶ。

講義方法：演習形式で行う。所属研究室によって指導方法は異なる。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)
関与の程度	◎	○	◎	◎	○	◎	◎

授 業 内 容

テ ー マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
概論	1	所属ゼミにおける演習の進め方および卒論・制作などについての概要を説明する。		A-Gの全て
卒業論文・卒業制作の基礎的指導	13	卒業論文又は制作のテーマの設定、研究・制作の方法選択、文献収集などの準備及び基礎的作業	テーマ設定、研究・制作方法	A-Gの全て
まとめ	1	演習のまとめを行う。		A-Gの全て

評価方法：担当者により異なる。

教科書等：担当者により異なる。

備 考：所属研究室の決定方法は、別途掲示する。

科目名：設計製図Ⅲ・第5課題（文化複合施設）

科目英文名：Design and Drawing Ⅲ①

担当者：森 一彦・小伊藤亜希子・（矢田 朝士）・（岸上 純子）

種 別：実習 単位数：実4 時間数：☆☆☆☆（Ⅲ②と合せて） 学年・学期：3回生・前期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：RC造による大規模な文化複合施設の計画・設計方法を身につける。特に、大学近郊の地域に敷地を設定し、具体的な計画立案を行う。具体的には、敷地周辺のフィールドサーベイを行って、問題点や求められる条件の整理を行った上で、施設の計画・設計を行う。図面作成段階では、実施図面のトレースと絡めさせながら、建築的な構造・納まりなどの検討も行い、完成度の高い図面に仕上げる。

講義の位置づけ：設計製図Ⅲは、設計製図Ⅱに続くRC造の設計で、複合的な空間計画の方法を習得することに主眼がある。さらに、地域におけるパブリックな視点からの計画立案を行い、設計製図Ⅲ以降の企画型設計の基礎的スキルを身につけられるように進める。

講義の概要：設計課題は敷地周辺地域調査と計画条件整理・施設の計画・設計からなる。具体的には、はじめに指定された敷地周辺のフィールドサーベイ・調査発表、それに基づく企画立案を行い、それらを基礎にして、本設計する。

講義方法：それぞれのテーマについて説明を行い、その後に実習する。一通りの実習で十分に身につくものではなく、個人の努力と研鑽によって到達点は異なる。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度	○					◎				○				◎			◎			◎	

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
周辺地域調査	4	計画敷地の周辺の現状調査を行い、設計条件の整理を行う。物的環境調査、住民へのヒアリング調査の2つの調査を行う。	フィールドサーベイ方法	A1・C1
周辺地域調査発表			調査結果のプレゼンテーションの方法	A1・G2
企画案作成	6	計画条件に基づき、各自が企画案を作成し、発表し、ディスカッションを行う。	企画立案の方法	A1・C1・F1
企画案作成発表			企画案のプレゼンテーションの方法	A1・G
本設計	12	企画案を基に、最終案に向けて計画を練る。構造計画、建築法規などの調整をとりながら、計画意図を反映した設計図面を作成する。	平面計画の方法、建築法規、構造計画法、ドローイングスキル	A1・C1・D1・E1
プレゼンテーション図面の作成	4	設計案を第3者に伝えるためのプレゼンテーション図面の作成を行う。完成図面を集団で講評会を行う。	プレゼンテーション図面の作成方法	A1・E1
最終講評会	4		設計案のプレゼンテーションの方法	A1・G2

評価方法：第5課題の提出図面・模型および発表内容を基に評価する。提出の遅れは減点する。  
 教科書等：必要に応じて、資料を配付するほか、スライドなどを用い、前年度作品を展示する。  
 備考：すべての課題を提出すること。課題の未提出は認めない。実習時間内は実習に集中すること。課題提出による以外の早退は認めない。課題提出は2通りある。「提出」は実習し、理解したことを確認するもので、評価対象としない。ただし、未記入・粗雑など明らかな欠陥がある場合は減点する。「提出・評価」は作品として評価する。提出の遅れは、1週間ごとに5%減点する。授業に30分以上遅れた場合は出席として認めない。（ただし事情がある場合は申し出ること。）

科 目 名：設計製図Ⅲ・第6課題（木造住宅意匠設計）

科目英文名：Design and Drawing Ⅲ②

担 当 者：竹原 義二・土井 正・小池志保子・（広渡孝一郎）・（阿久津友嗣）

種 別：演習 単位数：実4 時間数：☆☆☆☆（Ⅲ①と合せて） 学年・学期：3 回生・前期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：市街地に建つ都市住宅を木構造で設計する。平面、立面、断面から基礎伏図、床伏図、小屋伏図、軸組み図を設計する。

講義の位置づけ：この設計を通して木構造を理解する。さらに、断面図を考えることで空間の意義を考える。

講義の概要：自分で設計した住宅の完成模型と木構造の軸組みを製作する。平面計画を把握し、構造の構法を理解する。

講義方法：要求される図面それぞれについて、講義・説明をする。グループに分かれてワークショップ形式でそれぞれの考えを発表する。完成模型と空間を構成する木構造の軸組みを製作することで木造住宅の建築を実習する。

学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度						○	○	○		○				◎		◎	○	○	○	○	○

授 業 内 容

テ ー マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
木造住宅の実例	2	木造住宅の現代社会における家族関係の変遷から平面図の変化の事例を説明し、実例をビジュアルで解説する	現代における住宅をさぐる	D
木造住宅の見学	2	現場にて木構造の軸組みを解説する	住宅の実物を知る	C, D
住宅のエスキース	4	4つのグループに分かれてワークショップ形式で各自の考えをプレゼンテーションで発表する	エスキースによる表現	C, D, E, F1
平面、立面、断面の理解とスケッチ	4	平面、立面、断面によって住宅計画を理解する	図面は他者に伝達する手段であることを学び、表現することの重要性を知る	C1, C2, D, E, F1
基礎伏図、床伏図、梁伏図、小屋伏図、軸組図	4	構造軸組図を理解する	建築の骨格を表現することの重要性を知る	C, D, E, F1
設計図による表現	4	設計図面の表現方法を習得する	配置図、平面図、立面図、断面図、構造図	C3, D, E, E1
軸組み模型製作	4	軸組模型を制作することによって	軸組模型	E, G
模型製作	4	模型の持つ意味を理解し、表現の手法を習得する	模型製作	E, F1, G2
講評会	2	各自が作品を説明し、教員の講評を受ける	自分の表現方法と他者のプレゼンテーションを知る	E, F1, G2

評 価 方 法：Aについては、住宅が建つ場所の周辺環境を考慮した住宅を設計することで評価する。Cについては、住宅を設計することによって、居住空間を理解することで評価する。Dについては、住宅の構造及び施工の手順を知ることによって、関連技術の知識を理解することで評価する。Eについては、快適な空間設計をデザインする能力を設計によって評価する。Fについては、設計条件の中から、企画・立案・実行を行う能力を設計によって評価する。Gについては、設計図面・模型をもとにプレゼンテーションをすることによって評価する。

教 科 書 等：別途教科書を指定する。授業中に資料を配布する。  
備 考：

科 目 名：設計製図Ⅳ・第7課題（表現技術による提案、集合住宅の設計計画）

科目英文名：Design and Drawing IV

担 当 者：竹原 義二・森 一彦・小池志保子・（吉井 歳晴）・（山隈 直人）・（芦澤 竜一）

種 別：演習 単位数：（選択必修）実4 時間数：☆☆☆☆ 学年・学期：3 年生・後期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：設計製図は建築を考える上で最も重要な授業のひとつである。計画や構造・設備など様々な専門科目の講義において学んだ知識を用い、与えられた条件の下で空間に置き換え図面に表現するという総合化の技術をここで訓練する。図面に加えて模型作成の技術も重要なプレゼンテーションの技術である。

講義の位置づけ：この授業は、設計製図Ⅲまでに習得した設計製図に必要な基礎的技術から一歩進んで、設計図面によって自分の考えを表現することに重点がある。

講 義 の 概 要：表現技術を用いた提案、及び集合住宅を課題とし、自己の中で思考した空間を図面で表現し、他者に伝える手段として図面化することを学ぶ。

講 義 方 法：課題を始めるにあたって、これまで学んできたことを生かしながら、生活者の視点に立った各自の提案を伝えるための表現技術を習得する。集合住宅については、現代までの集合住宅計画の発展を資料等により学習し、現代の集合住宅として何を提案するのかというコンセプトを明確にさせる。集合することによって起こる問題点を考えることは、他者との関係において自己との関わりをさぐることから始まる。両課題ともに、先進事例の調査や見学会を行った上で設計を実施し、計画によって自分の考えを表現することを学びとる。またワークショップ形式を取り入れ、考えを他者に伝える訓練をする。

学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度							○			◎						○	◎		◎	◎	◎

授 業 内 容

テ ー マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
建築提案 表現技術	5	建築提案内容を表現すること。そのために必要な技術と表現方法を考える。	技術と表現方法の概要	G
コンセプトワーク	9	表現の裏付けとなる理論を検討する。	条件整理、理論の検討、データ収集を行なう。模型制作、スケッチ、レイアウト案の作成。	C2
事例研究	8	建築家による建築表現事例の研究	事例の調査、収集。ゲストレクチャー	G
表現技術	5	表現するための手法と技術の習得	スタディモデルの制作、トレーニング課題、レイアウト、編集作業	D
講評	3	各自が提案を展示し、教員の講評を受ける	表現方法と他者のプレゼンテーションを知る。	G
集合することの 意義	2	現代までの集合住宅のあり方を歴史的に検証し、今求められている集合住宅は何かについて習得する	集合住宅について、ワークショップ形式で自分の考えを表現する	C1, C2 C3, G
集合住宅の見学	8	集合住宅を見学することによって、今抱えている問題点を把握し、新しい考えに基づいた集合住宅を考える	現実に直面することで問題点を浮き彫りにし、新しい集合住宅を考え出す	C2
集合住宅における それぞれの問題点の検討	2	戸数の検討、階数の検討、配置の検討、駐車場の検討、建築基準法の検討	エスキースによる表現	E1
エスキース	6	自己のエスキースで表現する	プレゼンテーションによる表現	G
構造計画の理解	2	自分の考えている建築を実現する構造を理解し、考えを習得する	構造計画	C1, D1

平面、立面、断面、 構造の図面	6	平面、立面、断面によって集合住宅を理解する	図面は他者に伝達する手段であることを学び、表現することの重要性を知る	C3, E1, E3
矩計図の理解	4	矩計図は何を表現するかを理解し、考えを習得する。	矩計図の表現	D1, E3
配置計画とランドスケープ	2	配置計画の重要性を理解し、考えを習得する	配置図の表現	C3, E1
設計図による表現	5	設計図面の表現方法を習得する	配置図、平面図、立面図、断面図、矩計図	D1, E1
模型の製作の仕方	3	模型の持つ意味を理解し、表現の手法を習得する	模型製作	D1, E1
講評	5	各自が作品を説明し、教員の講評を受ける	自分の表現方法と他者のプレゼンテーションを知る	G

評価方法：Cについては、表現技術の理解、集合住宅の居住空間が理解できているかで評価する。Dについては、構造及び、施工の手順を知ることによって関連技術の知識を理解できていることで評価する。Eについては、快適な空間設計をデザインする能力を設計作品によって評価する。Gについては、提案内容、設計図面、模型をもとにしてプレゼンテーションをすることによって評価する。

教科書等：教科プリント、及び資料を配付、また実例を把握するためスライド視聴を行う。教科書は別途指定する。

備考：

科 目 名：設計製図Ⅴ・第8課題（即日設計、デザイン提案）

科目英文名：Design and DrawingⅤ（One-day Design, Design Proposal）

担 当 者：藤田 忍・三浦 研・（宮崎 八郎）・（澤本侃一郎）・（増田 俊哉）

種 別：演習 単位数：実2 時間数：☆☆ 学年・学期：4回生・前期

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：即日設計を通して建築計画、設計の総合化の実践技術を学ぶ。デザイン提案においては、デザインコンペへの参加を想定し、与条件を分析したうえで建築設計として企画・表現・提案する。

講義の位置づけ：即日設計に必要とされる能力は、建築計画のみならず都市計画、法規、構造、環境、福祉など幅広い分野に及ぶ。これら関連分野の内容を設計図に反映させる訓練を行うとともに、表現・提案力を卒業設計に活かすため、コンペへの参加を想定したデザイン提案に取り組む。

講 義 の 概 要：一級建築士受験の設計課題を題材に、規定時間内に敷地計画、建築計画、構造計画、建築法規などの知識を総合し、図面にまとめる技術を学ぶ。また、与条件下において優れた企画・提案を美しくプレゼンテーションする能力を培う。

講 義 方 法：即日設計とデザイン提案の2部からなる。即日設計においては、試験課題に関わる建築計画、法規、構造、都市計画ほかについて講義し、図面をまとめるための技術、注意点を講義と模擬試験を通して学ぶ。なお、模擬試験および本試験の結果は、一人一人について講評し、各人の到達度と目標を明らかにする。また、デザイン提案の7回の授業では、これまでの設計製図課題を総合し、コンペを想定したデザイン提案に取り組む。

学習・教育目標

学習・教育 目標	(A)			(B)		(C)				(D)				(E)			(F)		(G)		
	(A1)	(A2)	(A3)	(B1)	(B2)	(C1)	(C2)	(C3)	(C4)	(D1)	(D2)	(D3)	(D4)	(E1)	(E2)	(E3)	(F1)	(F2)	(G1)	(G2)	(G3)
関与の程度	◎	◎				◎	◎	◎		◎	◎		◎	○	○	○	◎	◎		◎	

授 業 内 容

テ ー マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
即日設計 課題説明・分析	2	本課題でとりあげる建築を設計するための知識・与条件について検討し、設計のプロセスを講義する	配置計画、平面計画、断面計画、構造計画、設備計画、法的規制	A1, A2C1, C2, C3, D1, D2, D4
見学会	2	実際の施設を見学し、説明を受ける	使われ方、機能、寸法、材料	A1, A2, C1, C2, D1, D2, D4
課題内容の分析 と必要知識の習得	2	講義を受けて、周辺知識の整理と設計の準備を行う	配置計画、平面計画、断面計画、構造計画、設備計画、法的規制	C1, C2, C3, D1, D2, D4
模擬試験 講評会	4	模擬試験に関する事前解説を行ったあと、模擬試験を行い、各自の結果について講評する	即日設計、模擬試験、講評会	C1, C2, C3, D1, D2, D4
本試験	2	即日設計の本試験を行う。	配置図、平面図、立面図、断面図、法的規制	C1, C2, C3, D1, D2, D4, E1, E2E3, F1, F2,
即日設計講評会	4	本試験の結果を講評するとともに、個々人の将来的課題を明確化する	講評会	C1, C2, C3, D1D2, D4
デザイン提案 課題説明 即日スケッチ	1	デザイン提案の課題説明、応募要項の説明、構想の着手、構想案の講評	応募要項、即日スケッチ、企画案・構想案の発表	E1, E2, E3, F1F2, G2
エスキース	2	与条件の読み取り、提案、企画、ストーリーの構想を深め、スタディ模型にまとめる	スタディ模型、コンセプト	E1, E2, E3, F1F2, G2
プレゼンテーション 作業	6	図面作成、模型作成、美しく表現する作業	敷地模型, CAD, 模型作成, PHOTOSHOP	E1, E2, E3, F1F2, G2
デザイン提案講 評会	2	デザイン提案のプレゼンテーションと講評	プレゼンテーション、講評会	E1, E2, E3, F1F2, G2
修正提案	1	講評を受けた指摘事項の修正	修正、レベルアップ	E1, E2, E3, F1F2, G2

評 価 方 法：C1, C2, C3, D1, D2, D4については、即日設計本試験の成績を中心に評価する。E1, E2, E3, F1, F2, G2については本試験およびデザイン提案の発表により評価する。ただし、講評会と模擬試験の出席を単位取得の要件とする。

教 科 書 等：配布資料ほか、必要に応じて指示

備 考：デザイン提案においては実際の応募要項等を考慮し、スケジュール等を調整する場合がある

科目名：演習Ⅱ

科目英文名：Seminar on Graduation Study Ⅱ

担当者：全教員

種別：演習 単位数：演2 時間数：☆☆ 学年・学期：4年生・通年

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的：それぞれの学生の所属研究室においてゼミ形式により、卒業論文又は制作の実施についての指導を受ける

講義の位置づけ：この演習での成果は卒業論文又は制作へ受け継がれる。

講義の概要：居住環境学における専門領域の研究や実践方法について演習形式で学ぶ。

講義方法：演習形式で行う。所属研究室によって指導方法は異なる。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)
関与の程度	◎	○	◎	◎	○	◎	◎

授業内容

テーマ	回数	概要	構成要素	学習・教育目標
概論	1	所属ゼミにおける演習Ⅱの進め方および卒論・制作の実践について概要を説明する。		A-Gの全て
卒業論文・卒業制作の具体的指導	28	卒業論文又は制作を進めるにあたって必要な知識や能力を付与し、居住環境学における専門教育の統合を目指す。	卒業論文又は制作の準備と実践	A-Gの全て
まとめ	1	演習のまとめを行う。		A-Gの全て

評価方法：担当者により異なる。

教科書等：担当者により異なる。

備考：

科 目 名：卒業論文または制作

科目英文名：Graduation Study

担 当 者：全教員

種 別：演習 単位数：8 時間数：☆☆ 学年・学期：4 回生・通年

当学科学生以外の受講：不可

講義の意義・目的 それぞれの学生の所属研究室においてゼミ形式により、卒業論文又は制作の実施についての指導を受ける。

講義の位置づけ：この演習において学部専門教育の集大成を行う。

講義の概要：居住環境学における専門領域の研究や実践方法に基づき演習形式で学ぶ。

講義の方法：演習形式で行う。所属研究室によって指導方法は異なる。

学習・教育目標

学習・教育目標	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)
関与の程度	◎	○	◎	◎	○	◎	◎

授 業 内 容

テ ー マ	回数	概 要	構 成 要 素	学習・教育目標
卒業論文・卒業制作の具体的指導	30	卒業論文または制作を実施し、完成させる。なお、中間発表により途中経過の確認と修正のための指摘を行う。さらに、完成後に発表会を行う。	卒業論文又は制作の実施と完成、プレゼンテーション能力	A-Gの全て

評 価 方 法：中間発表会、発表会への参加、および、論文または制作の提出を必須とし、その内容により評価する。実施日、提出期日を過ぎたものは評価対象外とする。ただし、事情がある場合は申し出ること。

教 科 書 等：担当者により異なる。

備 考：中間発表会、発表会の実施日、論文または制作課題の提出期日は、別途指示する。



科 目 名：家庭科教育法Ⅰ

科目英文名：Teaching Method in Family Living and Environment Ⅰ

担 当 者：(永田<sup>ナガタ</sup> 智子<sup>トモコ</sup>)

種 別：講義（隔年、平成23年度開講）

単 位 数：2単位

学年・学期：2年、3年・集中

当学科学生以外の受講：可

講義の目的：中学校・高等学校家庭科の学習意義や目標・内容の概要を理解し、学習指導案の作成・実践・評価といった家庭科授業を行うための基礎的・基本的な力を身に付ける。

講義の概要：家庭科の意義・目標・内容、学習指導案の作成方法、授業づくりの工夫、家庭科における評価等、家庭科教師として最低限必要な知識について講義する。また、家庭科の授業ビデオの視聴や分析活動、学習指導案の作成、模擬授業といった演習活動を通して、実践的な力を身に付ける。

講義方法：資料に基づいて講義・演習を行う。

授業内容

テ ー マ	予定回数	概 要
家庭科教育の意義	1	家庭科をなぜ学ぶのか、子どもたちから見た家庭科、家庭科教育の意義等について理解する。
家庭科教育の目標と内容	1	学習指導要領における小・中・高等学校の家庭科の目標と内容について理解する。
中学校の家庭科授業	2	教育実習生が行った授業ビデオ等を視聴し、分析活動や討議を通して授業イメージをつかむとともに授業を見る目を養う。
高等学校の家庭科授業	2	教育実習生が行った授業ビデオ等を視聴し、分析活動や討議を通して授業イメージをつかむとともに授業を見る目を養う。
学習指導案の作成	2	教育実習に備えて学習指導案の作成方法について理解し、実際に作成する。
模擬授業	2	作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行い、事後検討会を通して、課題を把握する。
授業づくりの工夫	2	実践的・体験的な学習活動やICTの活用など多様な授業方法について理解する。
家庭科における評価	2	観点別評価、評価規準、具体的な評価方法や手順について演習を通して理解する。
まとめ	1	総合的にまとめを行う。

評価方法：授業への出席・参加度（50）学習指導案の作成（20）模擬授業（30）

評価観点1 家庭科の目標と内容についての理解

評価観点2 家庭科における評価の意義と方法についての理解

評価観点3 家庭科授業の理解

教科書等：「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」

科 目 名：家庭科教育法Ⅱ

科目英文名：Teaching Method in Family Living and Environment Ⅱ

担 当 者：（赤松 <sup>アカマツ</sup> ジュンコ 純子）

種 別：講義（隔年、平成24年度開講）

単 位 数：2単位

学年・学期：2年、3年・集中

当学科学生以外の受講：可

講義の目的：家庭科の歴史を踏まえた上で、小中高等学校家庭科授業のあり方、教材についての考察、現  
在的課題への取り組みについて総合的に、家庭科への理解を深めることを目的とする。

講義の概要：家庭科の成立と現在までの歴史と学習指導要領を概説する。次に、現在の家庭科授業の組み  
立て方、教材のあり方について講義する。中学校「D 身近な消費生活と環境」の内容を中心  
に、小学校高等学校の内容とも連携させて扱う。家庭科の現代的課題として、消費者教  
育・環境教育について講義を行う

講義方法：資料に基づいて講義を行う。

授業内容

テ ー マ	予定回数	概 要
家庭科の歴史と学習指導要 領	2	小・中・高等学校家庭科の成立から現在までの歴史を学ぶことにより、 家庭科学習の意義と課題について考える。
家庭科の授業のあり方 ～授業作りと授業評価～	2	小・中・高等学校の家庭科授業のあり方を知り、家庭科の授業の組み 立て方と授業後の評価について理解する。
家庭科の教材のあり方	4	家庭科における教材の定義について知り、さらに、教材のいくつかを 体験的に知り、簡単な教材作成を試み、その評価を行う。
家庭科の内容 ～中学校「D 身近な消費生 活と環境」を中心に～	2	家庭科における中学校「D 身近な消費生活と環境」の内容を中心に、 小学校高等学校の内容とも連携させて知る。
家庭科の現代的課題 ～消費者教育～	2	家庭科における現代的課題の一つとして、消費者教育について知る。
家庭科の現代的課題 ～環境教育～	2	家庭科における現代的課題の一つとして、環境教育について知る。
まとめ	1	総合的にまとめを行う。

評価方法：集中講義のため出席を重視する。

評価観点1 家庭科の目標と内容についての理解

評価観点2 家庭科教育の歴史と課題の理解

評価観点3 家庭科授業の理解

教科書等：中学校家庭科教科書は各自持参（開隆堂、東京書籍のどちらでも可）。その他講義資料は担  
当教員が用意する。パソコン・インターネットを使用し、提出物はメールを活用する。

科 目 名：家庭科教育法Ⅲ

科目英文名：Teaching Method in Home Economics Ⅲ

担 当 者：(吉井 典子)

種 別：講 義（隔年、平成23年度開講）

単 位 数：2単位

学年・学期：2年、3年・集中

当学科学生以外の受講：可

講義の目的：中学校「技術・家庭」の家庭分野教科書を総括的に理解し、中学校における家庭科の役割を認識することを主要な目的とする。

講義の概要：家庭生活のありようが多様化し価値観も変化する中で、「食生活、衣生活、住生活の見直しと改善」、「命の大切さ、幼児の遊び、子どもと家族、地域の人々とのふれあい、環境や資源を考えた暮らし」等、中学生にどのように教えたら楽しい授業になるかを講義する。

講義方法：中学校教科書を中心に講義を行うが、必要に応じてプリントを配布したり、VTRを使用したりする。実習も取り入れる。

授 業 内 容

テ ー マ	予定回数	概 要
オリエンテーション	1	シラバスについて説明。評価の方法など
家庭科とは、家庭科教育法とは	1	歴史、法規など
学習指導要領について	1	改訂のポイント、ねらい
変容する家族、家庭生活	1	家族とは、生命の大切さ
中学生と食生活	1	健康な食生活
中学生の衣生活	1	衣類の洗濯、片づけなど、中学生らしい服装とは
住まいを見直そう	1	照明、整理整頓を考える
家族。幼児と遊び	1	幼児の遊び。おもちゃとおやつ
私と家族、家族と地域	1	家庭生活と地域との関わり
布を使って作品を製作	1	作品を提出する
学習指導案の作成①	1	学習指導案を作成する
学習指導案の作成②	1	学習指導案を提出する
学生による模擬授業①	1	学生による模擬授業を行う
学生による模擬授業②	1	学生による模擬授業を行う
まとめとレポートの作成	1	レポート提出

評価方法：講義への参加度、熱意及びレポートを総合的に評価します[学習指導案作成(20%)／模擬授業(20%)／出席点(20%)／レポート(20%)／衣生活の作品(20%)]。テストはしません。

評価観点1 家庭科の目標と内容についての理解

評価観点2 家庭科教育の歴史と課題の理解

評価観点3 家庭科授業の理解

教科書等：教員が用意する。

科 目 名：家庭科教育法Ⅳ

科目英文名：Teaching Method in Family Living and Environment Ⅳ

担 当 者：(吉井 典子)

種 別：講義（隔年、平成23年度休講）

単 位 数：2単位

学年・学期：2年、3年・集中

当学科学生以外の受講：可

講義の目的：中学校「技術・家庭」の家庭分野教科書を総括的に理解し、中学校における家庭科の役割を認識することを主要な目的とする。教科書の内容は多岐にわたるため、衣生活、消費生活、環境を中心に上げ、中学生に何をどのように教えるかを中心に講義する。

講義の概要：衣生活については「生活の自立」という観点から必要な事項を解説する。消費生活とその活動に伴う環境問題については、広く社会のしくみや地球環境負荷にいたる問題であることを理解する。

講義方法：中学校「技術・家庭」の家庭分野教科書を用いる。模擬授業を通して実践的な力を養う。

授 業 内 容

テ ー マ	予定回数	概 要
教科書と中学校学習指導要領	2	新しい学習指導要領に基づいた教科書内容と従来の教科書からの変更点を講義する。
衣生活領域の内容	3	衣生活に関する内容を特に衣服の選択とケアについて講義する。
消費生活の内容	3	我々の現在の消費生活をめぐる種々の問題点を中心に講義する。
身の回りの環境	3	消費物の後処理とごみ問題について講義する。
模擬授業	3	上記の内容について、各自が指導案を作成して模擬授業を行い学生を中心に話し合う。
まとめ	1	総合的にまとめを行う。

評 価 方 法：集中講義のため出席を重視する。

評価観点1 家庭科の目標と内容についての理解

評価観点2 家庭科教育の歴史と課題の理解

評価観点3 家庭科授業の理解

教 科 書 等：教員が用意する。

科 目 名：生徒指導論  
科目英文名：Theory of Guidance

担 当 者：（森 <sup>モリ</sup> <sup>ヒサヨシ</sup> 久佳）

種 別：講 義

単 位 数：2単位

学年・学期：2年・集中

当学科学生以外の受講：可

講義の目的：生徒指導に関する基本的な原理や内容を習得し、それを基にしながら学校教育の現場におけるさまざまな取り組みの実態を理解する。

講義の概要：自らの「生徒指導」に関するイメージを出発点としながら、「生徒指導」の基本的な知識や考え方を習得する。また、今日の学校教育における「生徒指導」のあり方と実践をさまざまな側面から検討し、考察していく。そして、「生徒指導」の意義と役割および今後の課題を整理し、これからの「生徒指導」の展望についての理解を深める。

講義方法：講義の形式を基本とするが、ディスカッションなども随時取り入れながら進めていく。

授業内容

テ ー マ	予定回数	概 要
オリエンテーション	1	講義の概要・目的・進め方・成績評価の方法など
生徒指導とは何か？	3	生徒指導の歴史
		生徒指導の基本的な考え方
		生徒指導の概念・理論
生徒指導のあり方と実践	1	生徒指導の方法・体制・組織
	3	生徒指導と問題行動（Ⅰ）：不登校
		生徒指導と問題行動（Ⅱ）：いじめ
		生徒指導と問題行動（Ⅲ）：非行等の問題
	2	生徒指導とカウンセリング（Ⅰ）
		生徒指導とカウンセリング（Ⅱ）
	3	生徒指導と教師（Ⅰ）：授業を中心に
		生徒指導と教師（Ⅱ）：学級・学校経営を中心に
		生徒指導と保護者・地域との連携
生徒指導の今後の課題	1	生徒指導の今後の課題
まとめ	1	これまでのまとめ

評価方法：出席点、小レポート、テスト（もしくは課題レポート）によって総合的に評価する。

評価観点1 生徒指導の理論を理解している

評価観点2 生徒指導の方法を理解している

評価観点3 生徒指導の今日的動向・課題を理解している

教科書等：小泉令三編著『よくわかる生徒指導・キャリア教育』（やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ）ミネルヴァ書房、2010年。文部科学省『生徒指導提要』教育図書、2011年。

その他、資料等も配布して進めていく。

備考：進度等に応じて、授業内容を変更する場合もある。

（担当者からの一言）：原理・理論的な側面と実践的な側面をうまく融合させながら、みなさんと共に考え、学び合いたいと考えています。

科 目 名：被服学概論

科目英文名：Clothing and Textile Science

担 当 者：(村田 <sup>ムラタ</sup> <sup>ヒロコ</sup> 浩子)

種 別：講義（隔年、平成23年度開講）

単 位 数：2単位

学年・学期：2年、3年・集中

当学科学生以外の受講：可

講義の目的：衣服は、人間にとって身体保護、身体衛生の維持において生活必需品であると同時に、審美性、社会性を伴う個性表現の手段である。近年は、手軽に安価な既製品が入手可能であり、あふれる衣料品の中で良質の衣服を選ぶ力が求められてくる。衣服の着用目的及び機能など、また年々市場に送り出される新しい素材について学修し、それらの力を身につけることを目的とする。

講義の概要：被服に対する正しい知識を身につけるため、被服材料学、被服衛生学、被服管理学を中心に解説する。

講義方法：講義は基本的には教科書に沿って行い、必要に応じてプリントを配布する。

授業内容

テ ー マ	予定回数	概 要
I. はじめに	2	被服学とは
II. 被服材料とその性能	3	天然繊維の構造と性質 化学繊維の構造とその性質 糸の構造と性質 布の構造と性質
III. 被服の機能	3	衣服の温熱的機能性 衣服の着用感覚 衣服の運動機能性
IV. 被服の管理	3	衣服の洗浄、漂白、仕上げ、保管、保存
V. 被服の機能とデザイン	3	衣服のバリアフリー 衣服におけるユニバーサルデザイン 子どもから高齢者用の衣服について
VI. まとめ	1	現代生活の衣生活における問題点

評価方法：レポート、出席

教科書等：印刷物を配布

科 目 名：被服構成学

科目英文名：Clothing Construction

担 当 者：(村田 <sup>ムラタ</sup> <sup>ヒロコ</sup> 浩子)

種 別：実習（隔年、平成23年度休講）

単 位 数：1単位

学年・学期：2年、3年・集中

当学科学生以外の受講：可

講義の目的：被服の着用目的と機能を理解した上で、被服構成学の知識や技術を教材の製作を通じて習得させることを目的とする。

講義の概要：人間は数千年も昔から、布を裁ち、縫合する裁縫という営みを続けてきた。その裁縫を科学的に体系化したものが被服構成学である。被服を構成するために必要な諸要因である被服設計、制作、材料、着装の課程を科学的に学修する。

講義方法：

授業内容

テ ー マ	予定回数	概 要
I. 人体計測	2	人体の体型、構造、形状の把握
II. デザインの設定	2	目的、用途に応じたデザイン選択
III. パターンメイキング	1	決定したデザインの製図
IV. 裁断	1	裁断
V. 縫製・仕上げ	8	仮縫い、補正、本縫い、仕上げ
VI. 着装評価	1	完成した作品の着装評価

評価方法：出席、裁縫作品

教科書等：印刷物を配布

科 目 名：食物学Ⅰ  
科目英文名：Food Science Ⅰ

担 当 者：<sup>イチカワ</sup>市川 <sup>ナオキ</sup>直樹

種 別：講 義

単 位 数：2単位

学年・学期：1年・後期

当学科学生以外の受講：可

講義の目的：食べ物（栄養素）がどのように消化、吸収され、体の中で利用されているのかを理解する。

この講義は、おもに、食品栄養科学科以外の学生で、QOLプロモーターを目指す学生、および、高等学校または中学校家庭科教諭を目指す学生を対象としている（詳細は履修概要を参照のこと）。

講義の概要：人体に必須の栄養素である糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルなどの消化、吸収、人体での利用のしくみを説明する。

講義方法：教科書を用いて講義するほか、補助的にプリントを利用することもある。

授業内容

テ ー マ	予定回数	概 要
栄養素の「燃焼」	1	身体の活動に必要なエネルギーになる栄養素について。
エネルギーとATP	2	栄養素が「燃焼」し、エネルギーになるしくみについて。
水は大切な体の成分	1	体に含まれる水と無機イオンの恒常性について。
糖質の消化吸収と利用	2	糖質の種類とその消化、吸収のしくみ、燃焼のしくみ。
脂質の生理機能	2	脂質にはどのようなものがあるか、脂質の体の中での働き、水に溶けない脂質が血液をどのように輸送されているか、などについて。
脂質の消化吸収と利用	1	脂質の種類、消化、吸収のしくみ、脂肪組織に脂肪が貯蔵されるしくみ、脂肪の燃焼のしくみなど。
コレステロール	1	コレステロールの体の中での働きと、過剰摂取からくる障害のしくみについて。
タンパク質の消化吸収	1	タンパク質、アミノ酸の消化、吸収のしくみ。
ビタミンは代謝の潤滑剤	1	ビタミンにはどのようなものがあり、体の中でどのように利用されているか。
無機栄養素としてのミネラル	1	塩分、カルシウムの摂取、人体での利用について。
食物繊維	1	食物繊維とは何か、なぜ必要かなどについて。
アルコールの代謝	1	飲んだお酒はどこへゆく？ お酒の飲めるひとと飲めないひととはどこが違う？

評価方法：主として定期試験で評価するが、レポート、出席率を考慮することもある。

教科書等：（教科書）田川邦夫 著「からだの働きからみる代謝の栄養学」タカラバイオ/丸善



科 目 名：食物学Ⅱ  
科目英文名：Food Science Ⅱ

担 当 者：曾根 <sup>ソネ</sup> 良昭 <sup>ヨシアキ</sup>

種 別：講 義

単 位 数：2単位

学年・学期：1年・前期集中

当学科学生以外の受講：不可

講義の目的：この講義では、人のQOLの向上に関連した「食」について、人類学・生理人類学の視点から理解することを1つの目的とする。さらに受講生の日常生活・食生活について調査を行い、正しい食品選択による健康な食生活を設計できる能力を養うことを第2の目的とする。

講義の概要：本講義の内容は「食べる」という非常に日常的なことを扱うため、受講者は単に食品学の知識を知識として得るばかりでなく、自らの日常生活との関連を強く意識して学習して欲しい。講義では受講者に食物摂取の記録を課し、それに基づいて、自らの健康と食物の関係を考える。

講義方法：教科書は特にしない。必要に応じてプリントを配布する。

#### 授 業 内 容

テ ー マ	予定回数	概 要
人類学・生理人類学からみたヒトの食	5	人類学・生理人類学の視点からみたヒトの「食」について担当者の研究結果も含めて講義する
栄養素の化学と消化・吸収	5	食物に含まれる栄養素の化学とそれらの消化・吸収について具体的に学ぶ
栄養素の代謝とその制御	4	タンパク質、脂質、糖質の代謝とその制御をエネルギー代謝の観点から学ぶ
自分の食生活について	1	ここまで学んだことをもとに、各自の食生活について発表する

評価方法：毎時間の課題に関するレポートの内容で評価する。

教科書等：必要なプリントを配布する。

備考：（担当者からの一言）講師の講義を受身的にただ聞くのではなく、自らの生活・食生活を考え、調査することにより主体的に講義に参加する姿勢をもつことを期待する。

科 目 名：調理実習

科目英文名：Food Preparation

担 当 者：(佐伯 <sup>サイキ</sup> 孝子)・小島 <sup>タカコ</sup> 明子 <sup>コジマ</sup> <sup>アキコ</sup>

種 別：実 習

単 位 数：2単位

学年・学期：2年・集中

当学科学生以外の受講：可

講義の目的：多くの食品は、調理という過程を経てよりおいしく、消化吸収し易くなり、われわれの健康保持、増進に役立つ食物となる。そこで調理を行う行動の中で、科学的に調理を感じ取り健康的な食生活を送ることを目的とする。

講義の概要：素材の見分け方・扱い方、種々の調理法、配膳方法について、日本料理・西洋料理・中国料理別に調理の基礎から実習する。

講義方法：教科書に沿って実習を行う

授業内容

テ ー マ	予定回数	概 要
実習の概要説明	2	調理実習心得・衛生管理・実習準備
調理の基礎	2	計量・洗浄の方法、包丁の種類と使い方、種々の切り方、鍋を使つての炊飯、出汁の引き方、出し巻き卵の作り方、米粉の使い方
日本料理の基礎	4	日本料理の特徴・種類・盛り付けかた・配膳の基本・テーブルマナー、魚の三枚おろし、煮物、蒸し料理の種類と方法、卵の調理性、南蛮漬
西洋料理の基礎	6	西洋料理の特徴・種類・盛り付けかた・配膳の基本・テーブルマナー、スープの種類、プイヨンの取り方、ソースの作り方、サラダ・ドレッシングの種類と作り方、ゼラチンの調理性
中国料理の基礎	4	中華料理の特徴・種類・盛り付けかた・配膳の基本・テーブルマナー、湯の取り方、揚げ物調理法、涼拌、寒天の扱い方、魚料理
日本料理	2	すし各種、うしお汁
中国料理	2	桂むきの練習、肉の種類と部位による使い分け、酢豚、炒飯
日本料理	2	もち米、いりこだしのとり方、味噌の種類、天ぷらのコツ、焼きものの種類と方法、松花堂弁当
中国料理	2	点心の種類、発酵、包子の作り方、粥の炊き方
西洋料理	2	ビュッフェ形式の盛り付けかた・テーブルマナー、ポタージュスープ、煮込み料理、スポンジケーキ、マヨネーズの作り方
日本料理	2	正月料理、串の刺し方

評価方法：出席、授業態度、実習時技術到達度、レポート、実技テストなど総合的に評価する。

教科書等：「新版 現代食生活のためのクッキング」現代食生活研究会

備 考：

(担当者からの一言)：家庭科教諭をめざす学生対象の内容

科 目 名：住居学概論

科目英文名：Introduction to Housing Study

担 当 者：谷 <sup>タニ</sup> 直樹、永村 <sup>ナオキ</sup> 一雄、森 <sup>エムラ</sup> 一雄、<sup>カズオ</sup> 森 <sup>モリ</sup> 一彦 <sup>カズヒコ</sup>

種 別：演 習

単 位 数：2単位

学年・学期：1年・後期集中

当学科学生以外の受講：可

講義の目的：この講義は、居住環境学科以外の学生で、高等学校または中学校家庭科教諭を目指す学生のために開講されるものである。教育職員免許法施行規則に定められる内容のうち、主として「住居学」の内容を学ぶためのものである。

講義の概要：住居学全般について演習を含めて教授する。気候・風土との関わりから住居の成り立ちを解説し、住宅の材料と構造が住まいの形態に与える影響について論じる。また、住まいの快適性と安全性を図るための方策について述べる。さらに、日本および世界の住居を取り上げて歴史的に解説し、現在の到達点と当面する諸問題について論じる。加えて、現代住居の多様な側面、例えば住宅事情、住まい方、集住形態とコミュニティ、居住環境などを取り上げて解説し、未来の居住空間について展望する。製図に関しては、表示記号や木造住宅などの図面について学び、演習を行う。

講 義 方 法：

授 業 内 容

テ ー マ	予定回数	概 要
世界の住居の諸相	1	西洋住居史、東洋住居史
日本の住居の歴史	1	寝殿造から書院造へ、町家と農家、町並み保存
現代住居をめぐる諸問題	1	家族、住生活
わが国の住宅事情	1	住宅問題、都市問題
住空間と住まい方	1	住様式、住宅の間取り
集合住宅とコミュニティ	1	集合住宅の形式、コーポラティブ住宅
住宅の材料	1	土、石、木、コンクリート、金属等の建築材料の特性
住宅の構造	1	木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造等の特性
住宅環境	1	温熱、光、音等の環境要素
住まいの防災と安全	1	自然災害と日常生活事故、防犯
設計製図演習	5	木造2階建住宅の平面計画、設計

評 価 方 法：出席とレポート

教 科 書 等：資料を配布する。

科 目 名：保育学

科目 英文名：Childcare Studies

担 当 者：堀<sup>ホリ</sup> 智晴<sup>トモハル</sup>

種 別：講 義

単 位 数：2単位

学年・学期：2、3年次・集中

当学科学生以外の受講：可

講義の目的：保育についての理論を学び、保育施設での見学実習を行う。

講義の概要：保育とは何か、保育の歴史、保育の現行制度、保育実践の意義と研究方法について講義するとともに保育実践現場において見学実習を行う。

講義方法：講義方式と演習形式を併用する。必要に応じて保育所、障害児通園施設での見学実習を行う。

授業内容

テ ー マ	予定回数	概 要
オリエンテーション	1	本講義の目的と予定について述べる。
保育とは	1	保育とは何か、保育の基本的性格について講義する。
保育の思想と歴史	2	保育の思想と歴史について講義する。
保育園と幼稚園	1	幼稚園と保育園について講義する。
保育所保育指針	1	保育所保育指針の保育内容について解説する。
幼稚園教育要領	1	幼稚園教育要領の保育内容について解説する。
子ども理解の方法	1	子ども理解の方法について講義する。
津守真の理論	1	津守真の保育理論について説明する。
保育実践に学ぶ	2	保育実践記録を読み論議する。障害児保育の実践記録を読む。実践研究の方法について講義する。
保育実践現場での見学実習	3	保育実践現場で保育実践にふれる機会を持ち、保育の意義と方法について考える。
まとめ	1	本講義のまとめを行う。

評価方法：出席点（50%）と筆記テスト（50%）により評価する。

教科書等：堀 智晴著『保育実践研究の方法』川島書店。

適宜、実践を記録したビデオを活用する。

備考：

（担当者からの一言）：保育実践にふれる機会を持つために保育関連科目でのボランティア体験をすすめる。  
たい。

科 目 名：栄養教育実習

科目英文名：Practice in Teaching (Nutrition)

担 当 者：ハルキ トシ ホリウチ タツ オ春木 敏・堀内 達夫（文学部教員）・ユアサ タカマサ湯浅 恭正（文学部教員）

種 別：実 習

単 位 数：1 単位

学年・学期：4 年・集中

当学科学生以外の受講：不可

講義の目的：教育実習を通して教職への意義をさらに高めることを目的とする。

講義の概要：大学の教職科目で履修した教育理論を踏まえて、教育実践を実地に体験することを通して教職に関する実践的指導力の基礎を身につける。

講義方法：小学校あるいは中学校での実習

授業内容：各教育実習校の計画にそって行う。

評価方法：教育実習校での評価を参考にして教育実習担当者会議で評価する。

教科書等：大阪市立大学編「教育実習の手引き」

備 考：教育実習を希望する者は、前年度の教育実習ガイダンスに必ず出席し、教育実習校に対する依頼手続きを進めておかなければならない。栄養教育実習と同時に履修する教職実習事前事後指導のシラバスは文学部シラバスを閲覧にすること。

（担当者からの一言）：実習では、学級担任教諭の指導の下、授業法ならびに児童生徒への声かけ等について実地に学ぶこと。学校教育全体の中に位置づけられる“食に関する指導”について主体的に学修すること。

科 目 名 : QOLプロモーション I

科目 英文名 : QOL Promotion I

担 当 者 : 清水 <sup>シミズ</sup> 由香・所 <sup>ユカ</sup> 道彦・西川 <sup>ミチヒコ</sup> 禎一 <sup>ニシカワ</sup> <sup>ヨシカズ</sup>

種 別 : 講 義

単 位 数 : 1 単位

学年・学期 : 1 年・集中

当学科学生以外の受講 : 不可

講義の目的: QOL (Quality of Life) の概念を学び、これまでは健康事象のみから評価されがちであった QOL を、受講生全員でとともに考えながら地域生活を包含するものに広げる。そして、この新しい QOL の向上に寄与する上で、異なる分野の専門職による俯瞰的分析と取り組みが、どの程度の重要性および有効性を有するか検証する。

講義の概要: まず QOL という概念について説明する。続いて、地域生活を包含する新しい QOL 概念の確立に向けて議論し、地域づくりにつながる QOL プロモーションのありようを考える。そして、QOL プロモーションのために異なる分野の専門職による俯瞰的分析と協働の必要性について、3 学科の教員と参加住民・専門職および受講学生によるディスカッションを進める。

講義方法: とともに受講する地域住民や専門職から直面している問題の提起を受けたり、教員が収集した事例を題材にしたりして、生活問題の多面性に関してディスカッションすることを講義の中心とする。

授 業 内 容

テ ー マ	予定回数	概 要
QOL 概念について	1	QOL 概念の発生から現在までの変遷を学ぶ。
地域生活者の QOL	1	健康問題から地域生活へと QOL 概念の展開を図る。
QOL プロモーションの過去と未来	2	トップダウン傾向が強かった従前の健康福祉施策を顧みて、これからのあり方を考える。
生活問題の多面性	1	生活問題を 3 学科教員により多面的に解析する。
専門職チームアプローチの有効性	2	専門職の協働による多面同時改善策が有効な生活問題事例を検討する。
QOL プロモーションによる地域づくり	1	地域生活の QOL プロモーションを地域づくりに結びつける活動のありようを事例の中に探す。

評 価 方 法 : 出席状況・授業中のディスカッションへの参加態度・レポート評価

教 科 書 等 : プリントを配布する。

備 考 :

(担当者からの一言) : 新しい授業です。住みよい街づくりを実現するために、QOL プロモーターに求められる生活問題の多面的把握について、その意義を共に考えましょう。「QOL プロモーション I」及び「QOL プロモーション演習 I」の履修は同時に履修すること。

科 目 名：QOLプロモーションⅡ

科目 英文名：QOL Promotion Ⅱ

担 当 者：上田 博之・島中 宗一・岩間 伸之

種 別：講 義

単 位 数：1単位

学年・学期：2年・集中

当学科学生以外の受講：不可

講義の目的：地域住民の生活課題の把握・分析方法とその解決策の立案・実行に必要なスキルの修得に必要な基礎知識を学ぶ。

講義の概要：地域住民の生活課題を把握、解決策の立案・実行を行うための、地域ニーズ・アセスメントおよび地域計画立案・実行のプロセスを説明する。地域ニーズ・アセスメントで、どのようにして地域住民の生活課題に関する情報を集め、どのように分析し、そして、地域計画で、その分析結果を統合しながら、どのように生活課題に関する解決策を見だし、実行していくのかを具体的に説明する。

講義方法：基本的なことについて説明するとともに、具体的な事例などを用いて基礎的理解を促す。また、教員とのディスカッションを通じて、本講義で学んだ基礎知識の応用力を養う。

授業内容

テ ー マ	予定回数	概 要
地域住民の課題に関する情報収集の方法	1	地域計画におけるニーズ・アセスメントの方法を具体的に説明する。
ニーズ・アセスメント	2	1回目で説明した内容について、具体的な事例を用いて、ニーズ・アセスメントの理解を深める。
計画とコーディネーション	2	ニーズ・アセスメント後に行う計画および計画の実行のためのコーディネーションとは何かを説明する。
チームアプローチ方法	1	地域住民との共働および課題解決を行うにあたって、どのようなチームを組むことが望ましいのかを説明する。また、チームアプローチの現状と課題、チームアプローチの意義についても説明する。
地域住民のQOLとケアマネジメント	2	地域住民のQOLプロモーションを考えるにあたって、ケアマネジメントがどのような役割を果たすことができるのか、また、その観点から、どのようなケアマネジメントが展開されるべきなのかを説明し、学生ともディスカッションする。

評価方法：出席状況・授業中のディスカッションへの参加態度・レポート評価

教科書等：プリントを配布する。

備 考：

(担当者からの一言)：学生のQOLもプロモーションしていけるような講義を考えています。そのためにも、学生の主体的な参加を求めます。積極的な質問・コメントは大歓迎です。講義は、参加しているという実感をもつことが大切ですので、どんな些細な質問でもOKです。  
ぜひ、皆さんとともに、さまざまな課題にチャレンジしましょう。  
「QOL プロモーションⅡ」の履修は「QOL プロモーションⅠ、演習Ⅰ」を修得していること。「QOL プロモーションⅡ」及び「QOL プロモーション演習Ⅱ」の履修は同時に履修すること。

目 名：QOLプロモーション演習Ⅰ

科目 英文名：QOL Promotion Fieldwork PracticeⅠ

担 当 者：上田 <sup>ウエダ</sup> 博之・西川 <sup>ヒロユキ</sup> 禎一・春木 <sup>ニシカワ</sup> 敏 <sup>ヨシカズ</sup> 他 <sup>ハルキ トシ</sup>

種 別：演 習

単 位 数：1単位

学年・学期：1年・集中

当学科学生以外の受講：不可

講義の目的：本演習を通じて生活問題を体験し、受講生が「生活者の視点」を体得する糸口とする。

講義の概要：高齢者・障害者・児童の各領域で活動する地域団体や施設に赴き、生活問題の実態を地域の生活者と共有する中で、問題点の把握とQOL向上のために指向すべき目的を検討する。

講 義 方 法：学外演習

授 業 内 容

テ ー マ	予定回数	概 要
高齢者のQOL問題	1	高齢者介護の現状について実習する。
障害者のQOL問題	1	障害者の生活の現状について実習する。
児童のQOL問題	1	児童を取り巻く現状について実習する。
地域のQOL問題	1	地域の生活問題について実習する。
QOLニーズの把握	1	ボトムアップによるQOLニーズの把握を実習する。

評 価 方 法：出席状況・レポート評価

教 科 書 等：プリントを配布する。

備 考：

（担当者からの一言）：「QOL プロモーションⅠ」及び「QOL プロモーション演習Ⅰ」の履修は同時に履修すること。



科 目 名：QOLプロモーション演習Ⅱ

科目英文名：QOL Promotion Fieldwork Practice Ⅱ

担 当 者：上田 博之・西川 禎一・春木 敏 ほか

種 別：演 習

単 位 数：1単位

学年・学期：2年・集中

当学科学生以外の受講：不可

講義の目的：把握した生活問題やQOLニーズに対し、どのようにして改善策を検討して立案、実施するか、そのプロセスを体験する。

講義の概要：QOLプロモーション演習。で明らかにされた生活問題に対し、改善策を立案、実行する専門職のもとで演習する。

講義方法：学外演習

授業内容

テ ー マ	予定回数	概 要
高齢者のQOL改善	1	高齢者介護について立案された改善策を実行する。
障害者のQOL改善	1	障害者の生活について立案された改善策を実行する。
児童のQOL改善	1	児童を取り巻く現状について立案された改善策を実行する。
地域のQOL改善	1	地域の生活問題について立案された改善策を実行する。
改善策の評価	1	立案された改善策の評価について検討する。

評価方法：出席状況・レポート評価

教科書等：プリントを配布する。

備 考：

（担当者からの一言）：「QOLプロモーション演習Ⅱ」の履修は「QOLプロモーションⅠ、演習Ⅰ」を修得していること。

「QOL プロモーションⅡ」及び「QOL プロモーション演習Ⅱ」の履修は同時に履修すること。

科 目 名：居住福祉工学概論

科目 英文名: Introduction to Technology of Living Welfare

担 当 者：ウエダ ヒロユキ  
上田 博之

種 別：講義 単位数：2 時間数：22.5 学年・学期：1年・集中

当学科学生以外の受講：食品栄養科学科QOL希望者のみ、人間福祉学科QOL希望者のみ

講義の意義・目的: 我が国は高齢化が進み、大きな社会問題となりつつある。このような高齢化は、居住環境を考える場合にも重要視されはじめている。本講義はQOL関連科目として提供されるため、高齢社会における高齢者・障害者の居住問題と居住環境の課題について学習し、ユニバーサルデザインやバリアフリー設計の考え方など高齢者の居住問題の解決について、その基礎的知識を得ることを目的とする。

講義の位置づけ：本講義は、高齢者・障害者の居住に関する理念・考え方を重視する。福祉の知識や高齢者・障害者の身体機能、助成制度など幅広い内容の習得が必要となる。

講義の概要：本講義では、まず福祉の概念、居住福祉工学の考え方、高齢者の身体機能について解説する。これらの内容を理解した上で、高齢者施設や障害者施設、住宅などの問題について考える。

講義方法：講義内容をプリントにして配布する。講義内容は既に読んでいることを前提として講義する。講義は、プリントの解説を中心に行う。数回のレポート・演習問題を課し、レポートを提出を求める。提出されたレポートに対しては、適宜コメントする。

授業内容

テーマ	回数	概 要	構 成 要 素
居住福祉工学の概念 ／ 居住福祉工学とは何か	3	居住福祉工学の概念規定と役割・必要性 福祉と建築の関係  住宅内事故と高齢者	居住福祉工学の概念規定・背景・方向性・必要性 高齢化の状況・福祉の概念・建築と福祉の関係 住宅内事故・事故の要因・バリアフリー住宅と事故
高齢者の身体機能	3	加齢と身体機能低下	加齢と筋力低下・加齢と生理機能低下・加齢と疾患
福祉住環境の問題	6	映像にみる現在の高齢者住宅・施設、障害者しせつの問題	バリアフリーデザイン・ユニバーサルデザイン 介護保険・福祉住宅政策・福祉住環境整備の必要性和ニーズ
福祉先進国の方法	3	福祉国家のまちづくり  介護保険実施国の住宅改修	デンマーク・スウェーデンの福祉施設・住居の状況 オランダ・ドイツの住宅改修

評価方法：レポートの評価点（80％）＋講義への参画状況（20％）により行う。

教科書等：必要な資料（テキスト）を配布する。スライド・OHP などを使用する。